

姫路市高齢者実態意向調査
姫路市在宅介護実態調査
姫路市介護人材実態調査
調査結果報告書

—概要版—

令和5年3月

姫路市

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の対象	1
3. 調査の方法	1
4. 回収結果	1
5. 調査結果の図表示方法	2
II. 高齢者実態意向調査の結果	3
回答者の基本属性	3
問1 回答者の家族や生活状況について	5
問2 からだを動かすことについて	7
問3 食べることについて	10
問4 毎日の生活について	12
問5 地域での活動について	14
問6 たすけあいについて	18
問7 健康について	22
問8 認知症について	26
問9 介護予防への取組について	27
問10 自宅での介護及び今後の生活場所について	28
問11 地域包括支援センターについて	29
問12 ボランティアについて	30
基本チェックリスト判定結果	31
III. 在宅介護実態調査の結果	33
回答者の基本属性	33
A票 基本調査項目	35
B票 主な介護者の方について	39
ダブルケア・多重介護に関するアンケート	42
IV. 介護人材実態調査の結果	45
職員の状況等について	46
外国人介護職員の採用について	56

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本市の高齢者の皆様の日常生活の状況や必要な社会資源を把握し、効果的かつ効率的な支援等を可能にすることを目的に「高齢者実態意向調査」、「在宅介護実態調査」を実施しました。また、本市における介護人材の確保・定着に向けた支援策を検討するために、市内の介護事業所の雇用実態などを把握することを目的に「介護人材実態調査」を実施しました。これらの調査結果を踏まえ、本市が策定する第9期高齢者保健福祉計画および介護保険事業計画（令和6年度～8年度）における対応策の検討を進めます。

2. 調査の対象

- 高齢者実態意向調査：65歳以上の市民の中から無作為に抽出した約9,000名
- 在宅介護実態調査：在宅の要支援・要介護認定者で、更新又は区分変更の申請をしている人約650名
- 介護人材実態調査：姫路市内に所在する、介護保険サービスを提供する施設・事業所（福祉用具貸与、特定福祉用具販売を除く）約900事業所

3. 調査の方法

- 高齢者実態意向調査：郵送配布・回収
- 在宅介護実態調査：認定調査員による聞き取り調査
- 介護人材実態調査：郵送配布・回収

4. 回収結果

調査の種類	配布数（件）	回収数（件）	回収率（%）
高齢者実態意向調査	8,845	5,702	64.5
在宅介護実態調査	—	578	—
介護人材実態調査	863	690	80.0

5. 調査結果の図表示方法

- 設問ごとの集計母数は、グラフ中に「N=***」と図表記している。
- 集計結果の百分率（%）は、小数点第2位を四捨五入した値を図表記している。このため、単数回答設問の選択肢ごとの構成比の見かけ上の合計が100.0%にならない場合がある。
- 複数回答設問では、当該設問に回答すべき回答者数を母数として選択肢ごとにそれぞれ構成比を求めている。そのため、構成比の合計は通常100.0%にはならない。
- クロス集計のグラフ・数図表では、集計区分ごとの集計母数を「N=***」と図表記している。

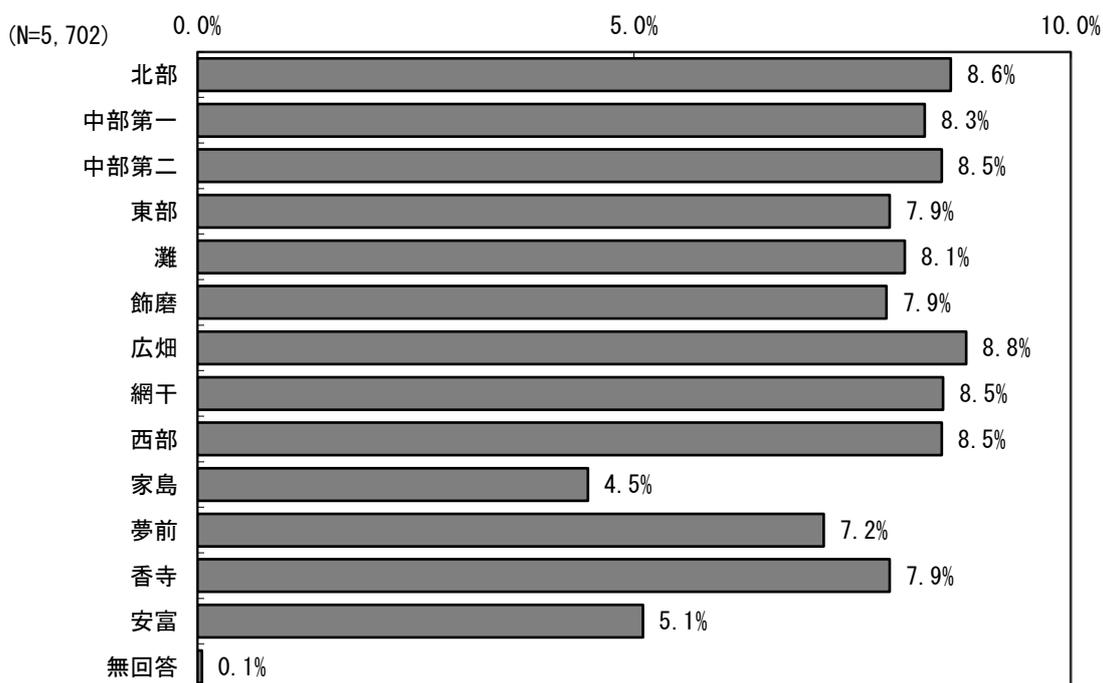
Ⅱ. 高齢者実態意向調査の結果

回答者の基本属性

【圏域】

圏域についてみると、「広畑」(8.8%)が最も多く、次いで「北部」(8.6%)、「網干」「中部第二」「西部」(それぞれ8.5%)となっています。

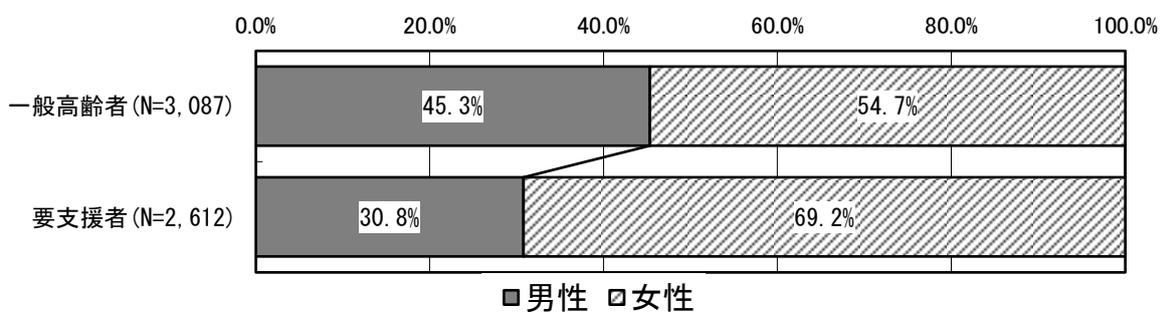
図表 圏域



【性別】

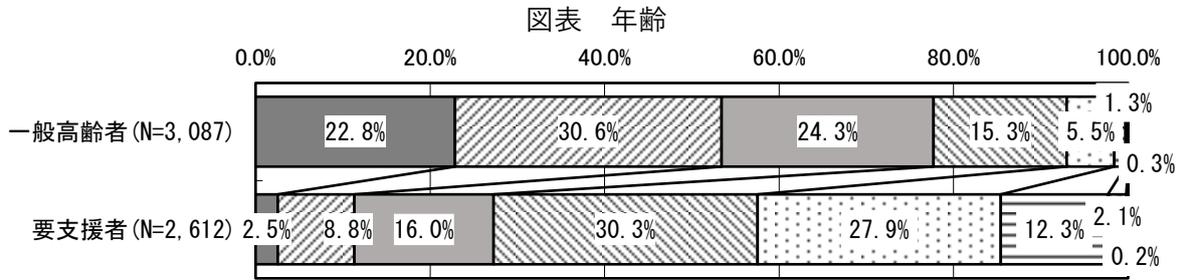
性別についてみると、一般高齢者は「女性」が54.7%、「男性」が45.3%となっています。要支援者は「女性」が69.2%、「男性」が30.8%となっています。

図表 性別



【年齢】

年齢についてみると、一般高齢者は「70～74 歳」(30.6%) が最も多く、次いで「75～79 歳」(24.3%)、「65～69 歳」(22.8%) となっています。また、65～74 歳が 53.4%、75 歳以上が 46.7% となっています。要支援者は「80～84 歳」(30.3%) が最も多く、次いで「85～89 歳」(27.9%)、「75～79 歳」(16.0%) となっています。

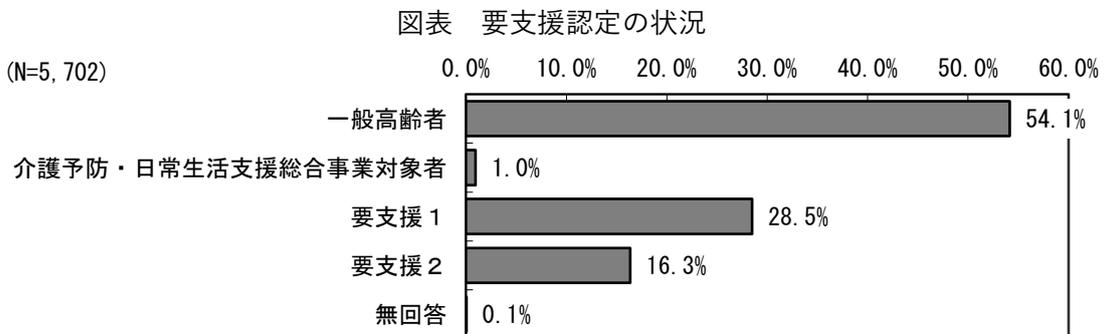


■65～69歳 □70～74歳 □75～79歳 □80～84歳 □85～89歳 □90～94歳 □95～99歳 □100歳以上

※100 歳以上は回答数が少ないため、年齢別のクロス集計では 100 歳未満の各年代の回答傾向に着目しコメントしています。

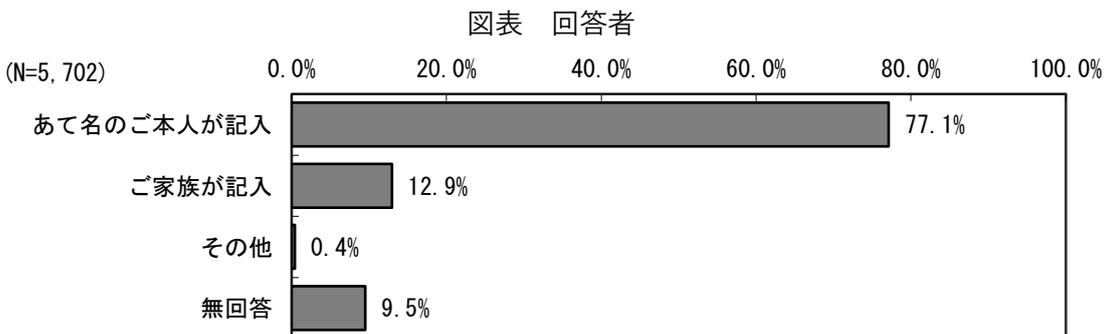
【要支援認定の状況】

要支援認定の状況についてみると、「一般高齢者」(54.1%) が最も多く、次いで「要支援 1」(28.5%)、「要支援 2」(16.3%) となっています。要支援認定者が 44.8% となっています。



【回答者】

回答者についてみると、「あて名のご本人が記入」が 77.1%、「ご家族が記入」が 12.9%、「その他」が 0.4% となっています。

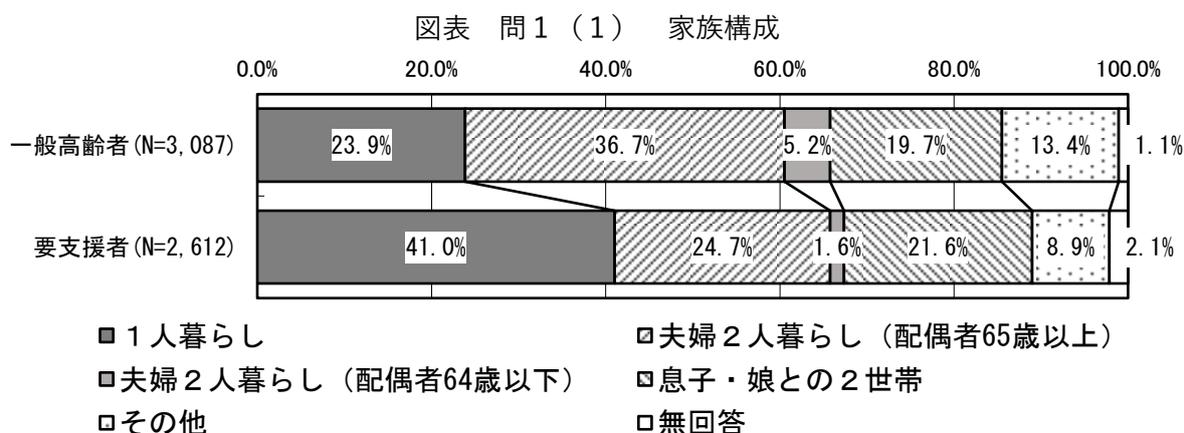


問1 回答者の家族や生活状況について

【家族構成】

(1) 家族構成をお教えてください

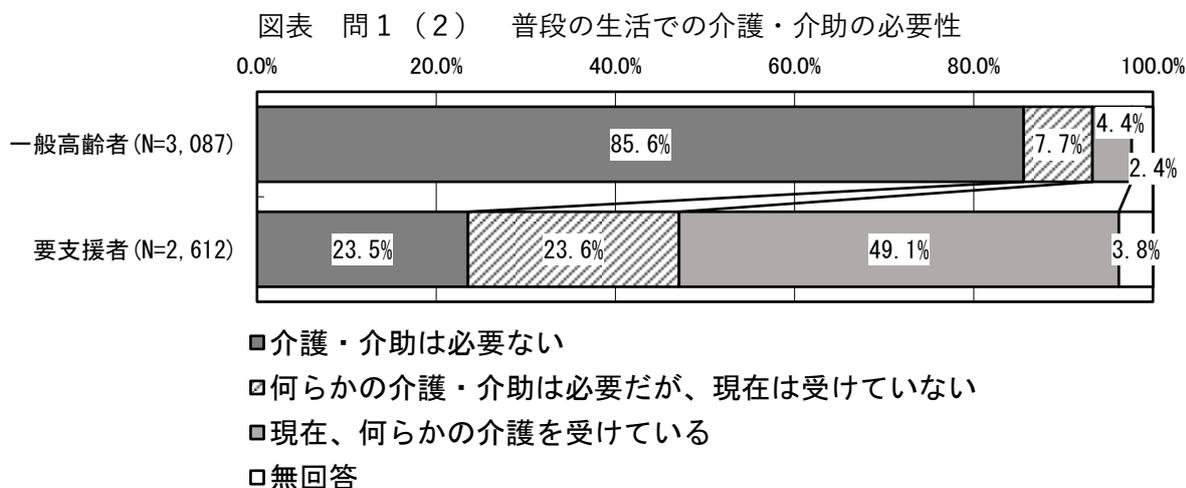
家族構成についてみると、一般高齢者は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（36.7%）が最も多く、次いで「1人暮らし」（23.9%）、「息子・娘との2世帯」（19.7%）となっています。要支援者は「1人暮らし」（41.0%）が最も多く、次いで「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（24.7%）、「息子・娘との2世帯」（21.6%）となっています。



【普段の生活での介護・介助の必要性】

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

普段の生活での介護・介助の必要性についてみると、一般高齢者は「介護・介助は必要ない」（85.6%）が9割近くを占めており、「現在、何らかの介護を受けている」は4.4%となっています。要支援者は「現在、何らかの介護を受けている」（49.1%）が約5割を占めています。

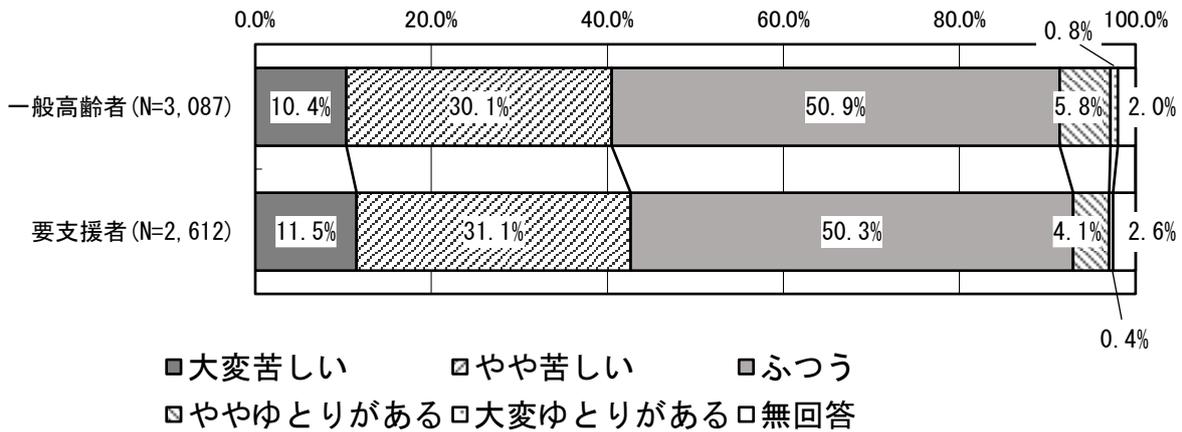


【現在の暮らしの状況】

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているか

現在の暮らしの状況についてみると、一般高齢者、要支援者ともに「ふつう」が最も多く、約50%となっています。一方、「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計は一般高齢者が40.5%、要支援者が42.6%となっています。

図表 問1(3) 現在の暮らしの状況



問2 からだを動かすことについて

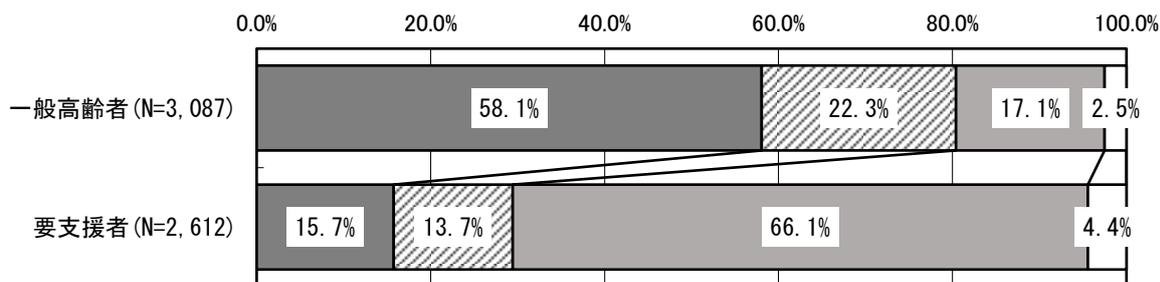
【運動の状況】

- (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか
 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか
 (3) 15分位続けて歩いていますか

運動の状況をみると、一般高齢者はいずれの項目も「できるし、している」が半数を超えており、「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか」と「15分位続けて歩いているか」ではそれぞれ7割以上を占めています。「階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか」は「できるけどしていない」と「できない」の合計が39.4%となっています。

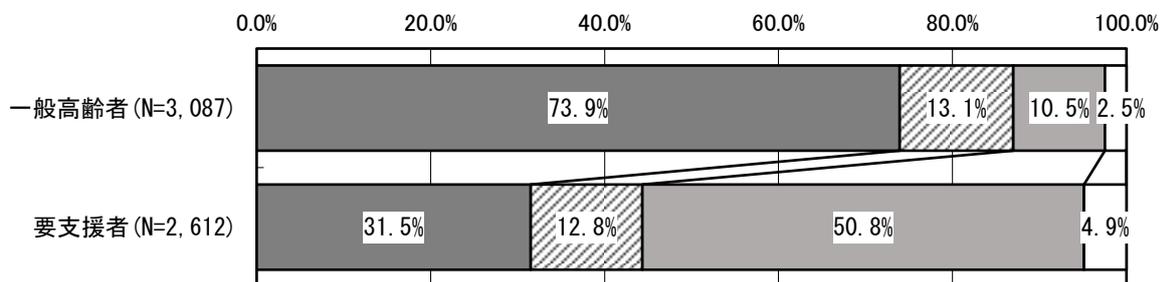
要支援者はいずれの項目も「できるけどしていない」と「できない」の合計が半数を超えており、「階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか」では79.8%となっています。

図表 問2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか



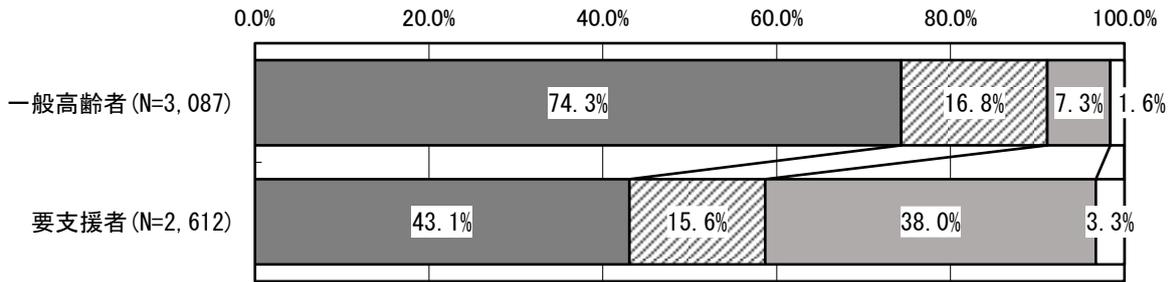
■できるし、している □できるけどしていない □できない □無回答

図表 問2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか



■できるし、している □できるけどしていない □できない □無回答

図表 問2 (3) 15分位続けて歩いているか



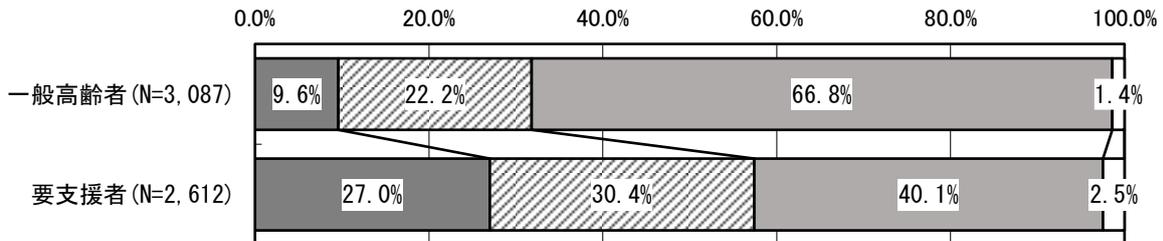
■できるし、している □できるけどしていない □できない □無回答

【過去1年間の転倒経験】

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

転倒の経験についてみると、「何度もある」と「1度ある」の合計は一般高齢者が31.8%、要支援者が57.4%となっています。また、要支援者は「何度もある」が27.0%となっています。

図表 問2 (4) 過去1年間の転倒経験



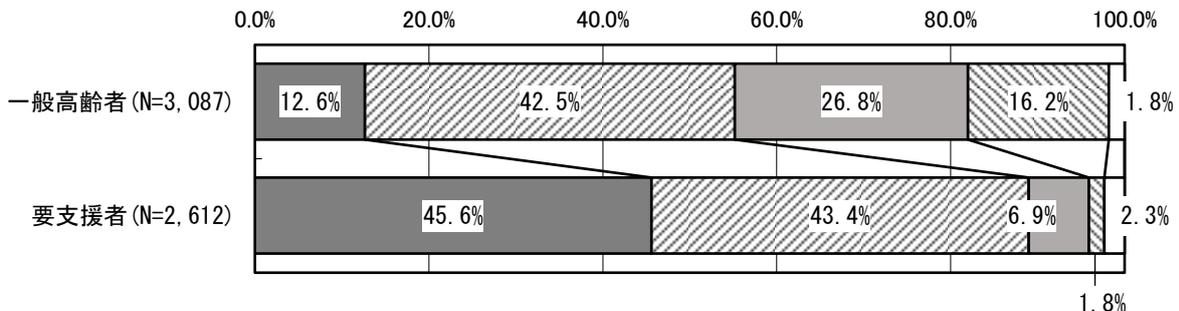
■何度もある □1度ある □ない □無回答

【転倒に対する不安】

(5) 転倒に対する不安は大きいですか

転倒に対する不安についてみると、「とても不安である」と「やや不安である」の合計は一般高齢者が55.1%、要支援者が89.0%となっています。また、要支援者は「とても不安である」が45.6%となっています。

図表 問2 (5) 転倒に対する不安



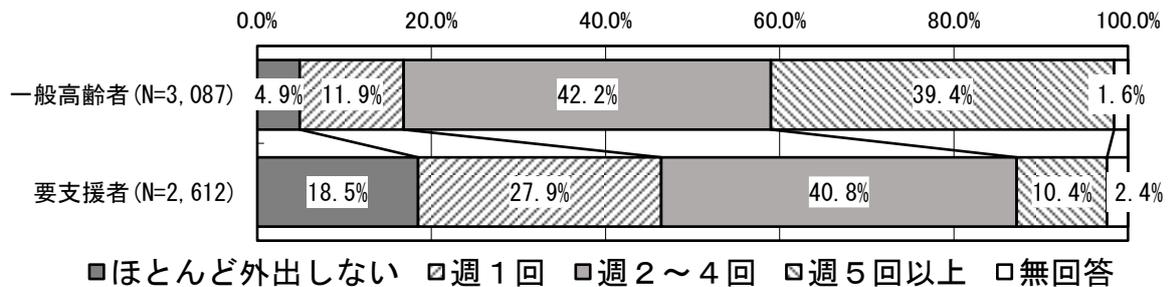
■とても不安である □やや不安である □あまり不安でない
 □不安でない □無回答

【外出頻度】

(6) 週に1回以上は外出していますか

外出頻度についてみると、一般高齢者は「週2～4回」(42.2%)が最も多く、次いで「週5回以上」(39.4%)、「週1回」(11.9%)となっています。要支援者は「週2～4回」(40.8%)が最も多く、次いで「週1回」(27.9%)、「ほとんど外出しない」(18.5%)となっています。

図表 問2(6) 外出頻度

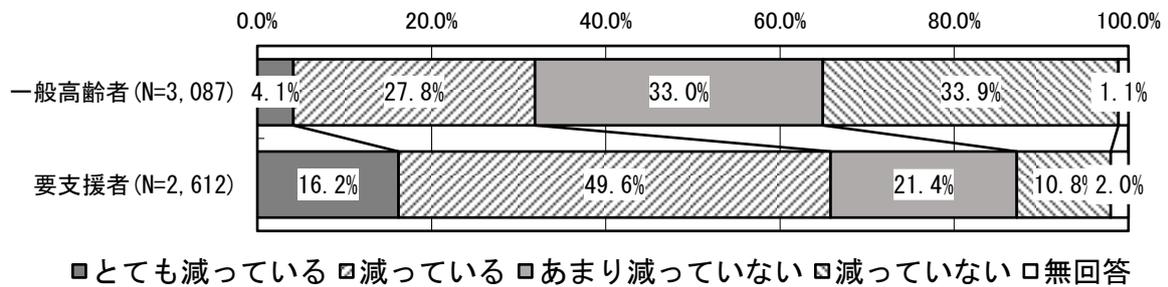


【外出回数の減少状況】

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

外出頻度の減少についてみると、「とても減っている」と「減っている」の合計は一般高齢者が31.9%、要支援者が65.8%となっています。

図表 問2(7) 外出回数の減少状況



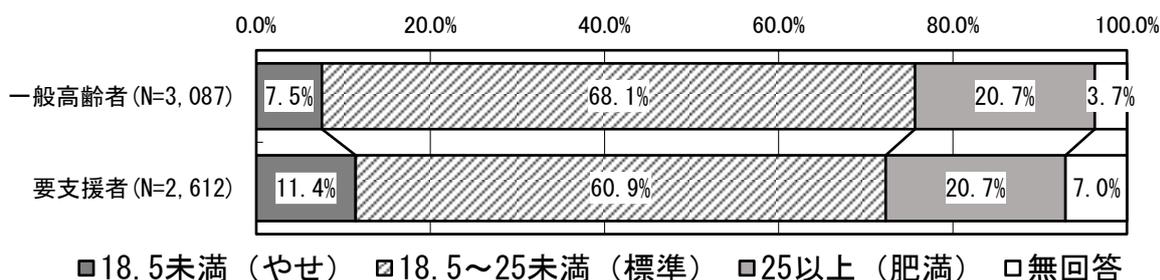
問3 食べることについて

【身長・体重（BMI）】

(1) 身長・体重

身長・体重（BMI）についてみると、「18.5～25未満（標準）」は一般高齢者が68.1%、要支援者が60.9%となっています。また、一般高齢者、要支援者ともに「25以上（肥満）」が約2割、「18.5未満（やせ）」が約1割を占めています。

図表 問3（1） 身長・体重（BMI）

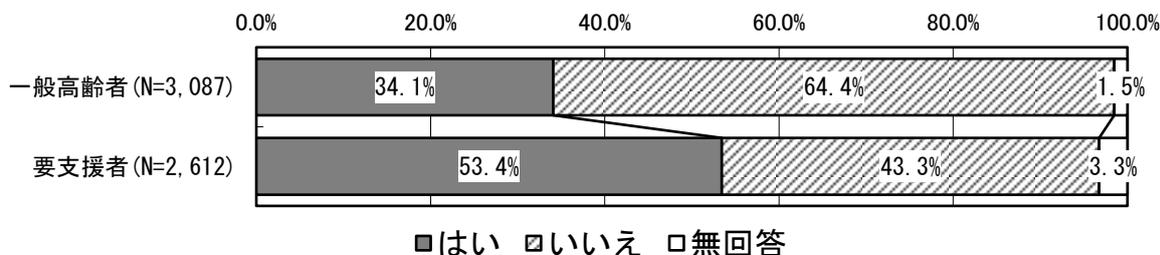


【半年前に比べて固いものが食べにくくなったか】

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかをみると、「はい」は一般高齢者が34.1%、要支援者が53.4%となっています。

図表 問3（2） 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

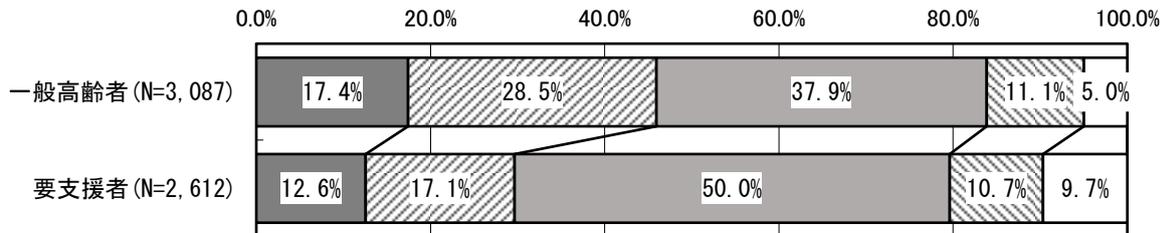


【歯の数と入れ歯の利用状況】

(5) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください

歯の数と入れ歯の利用状況についてみると、入れ歯の利用状況にかかわらず、自分の歯が 20 本以上ある人（「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」の合計）は、一般高齢者が 45.9%、要支援者が 29.7%となっています。

図表 問3 (5) 歯の数と入れ歯の利用状況



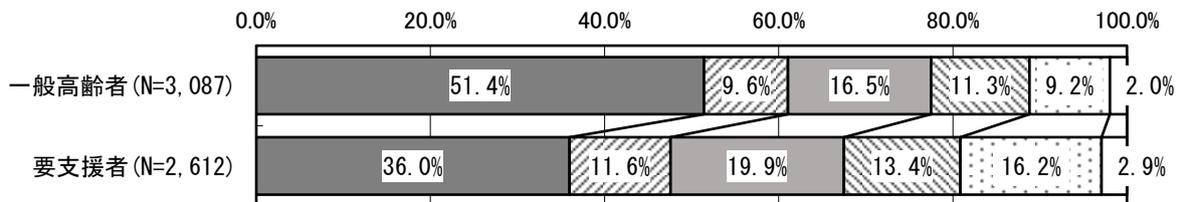
- 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用
- 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
- 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
- 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし
- 無回答

【共食の機会】

(7) どなたかと食事をとる機会がありますか

誰かと食事をとる機会についてみると、「毎日ある」は一般高齢者が 51.4%、要支援者が 36.0%となっています。一方、「ほとんどない」は一般高齢者が 9.2%、要支援者が 16.2%となっています。

図表 問3 (7) 誰かと食事をとる機会



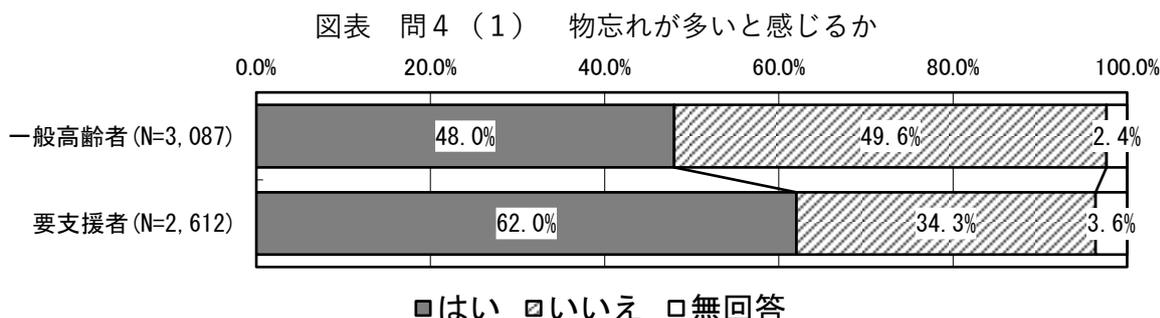
- 毎日ある
- 週に何度かある
- 月に何度かある
- 年に何度かある
- ほとんどない
- 無回答

問4 毎日の生活について

【物忘れの状況】

(1) 物忘れが多いと感じますか

物忘れが多いと感じるかをみると、「はい」は一般高齢者が 48.0%、要支援者が 62.0%となっています。

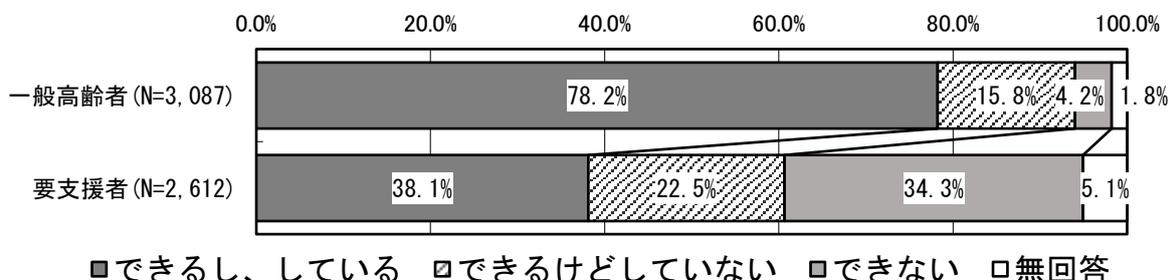


【バス等の利用による外出状況】

(5) バスや電車で1人で外出していますか(自家用車でも可)

バスや電車で1人で外出しているかをみると、「できるし、している」は一般高齢者が 78.2%、要支援者が 38.1%となっています。

図表 問4 (5) バスや電車で1人で外出しているか(自家用車でも可)

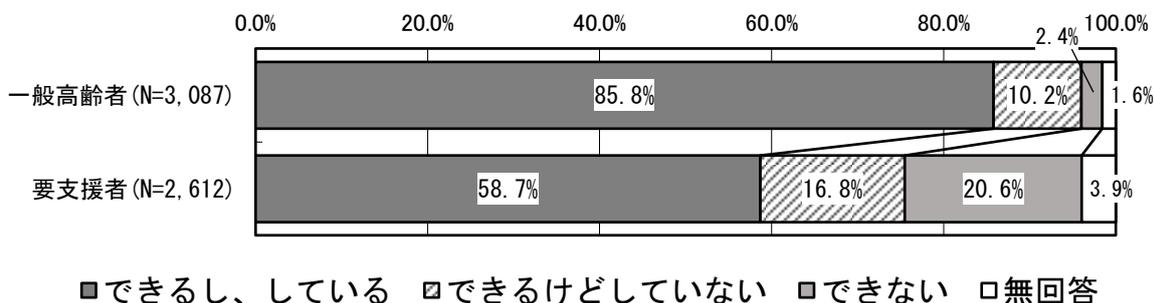


【買い物状況】

(6) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

自分で食品・日用品の買物をしているかをみると、「できるし、している」は一般高齢者が 85.8%、要支援者が 58.7%となっています。

図表 問4 (6) 自分で食品・日用品の買物をしているか

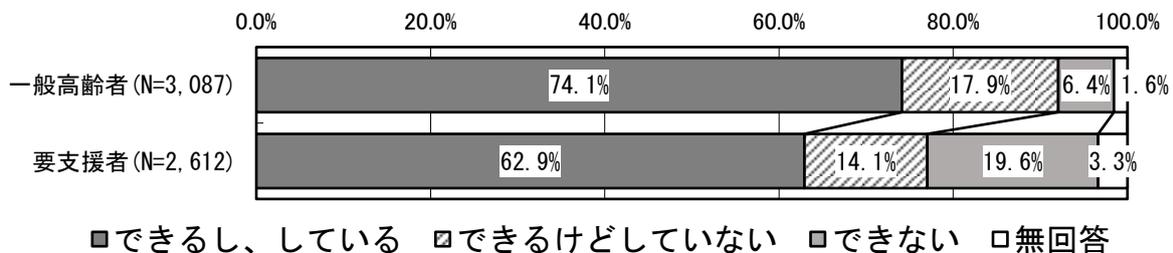


【食事の用意の状況】

(7) 自分で食事の用意をしていますか

自分で食事の用意をしているかをみると、「できるし、している」は一般高齢者が 74.1%、要支援者が 62.9%となっています。

図表 問4 (7) 自分で食事の用意をしているか

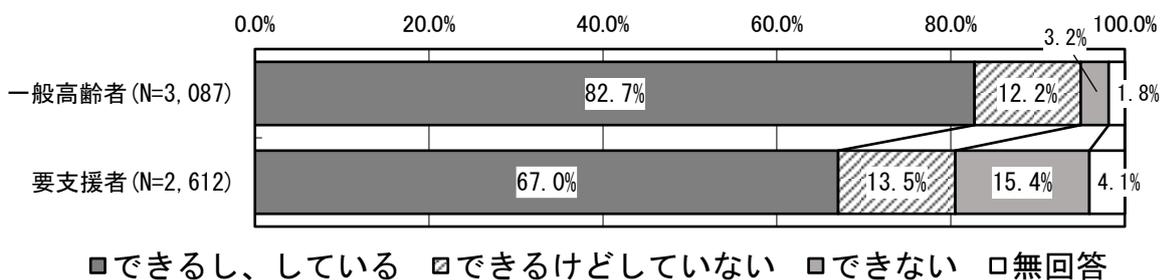


【請求書の支払い状況】

(8) 自分で請求書の支払いをしていますか

自分で請求書の支払いをしているかをみると、「できるし、している」は一般高齢者が 82.7%、要支援者が 67.0%となっています。

図表 問4 (8) 自分で請求書の支払いをしているか

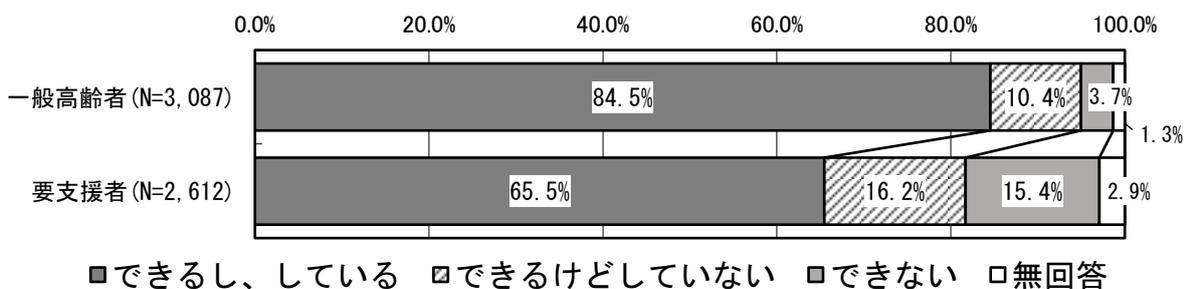


【預貯金の出し入れ状況】

(9) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

自分で預貯金の出し入れをしているかをみると、「できるし、している」は一般高齢者が 84.5%、要支援者が 65.5%となっています。

図表 問4 (9) 自分で預貯金の出し入れをしているか



問5 地域での活動について

【会・グループ等への参加頻度】

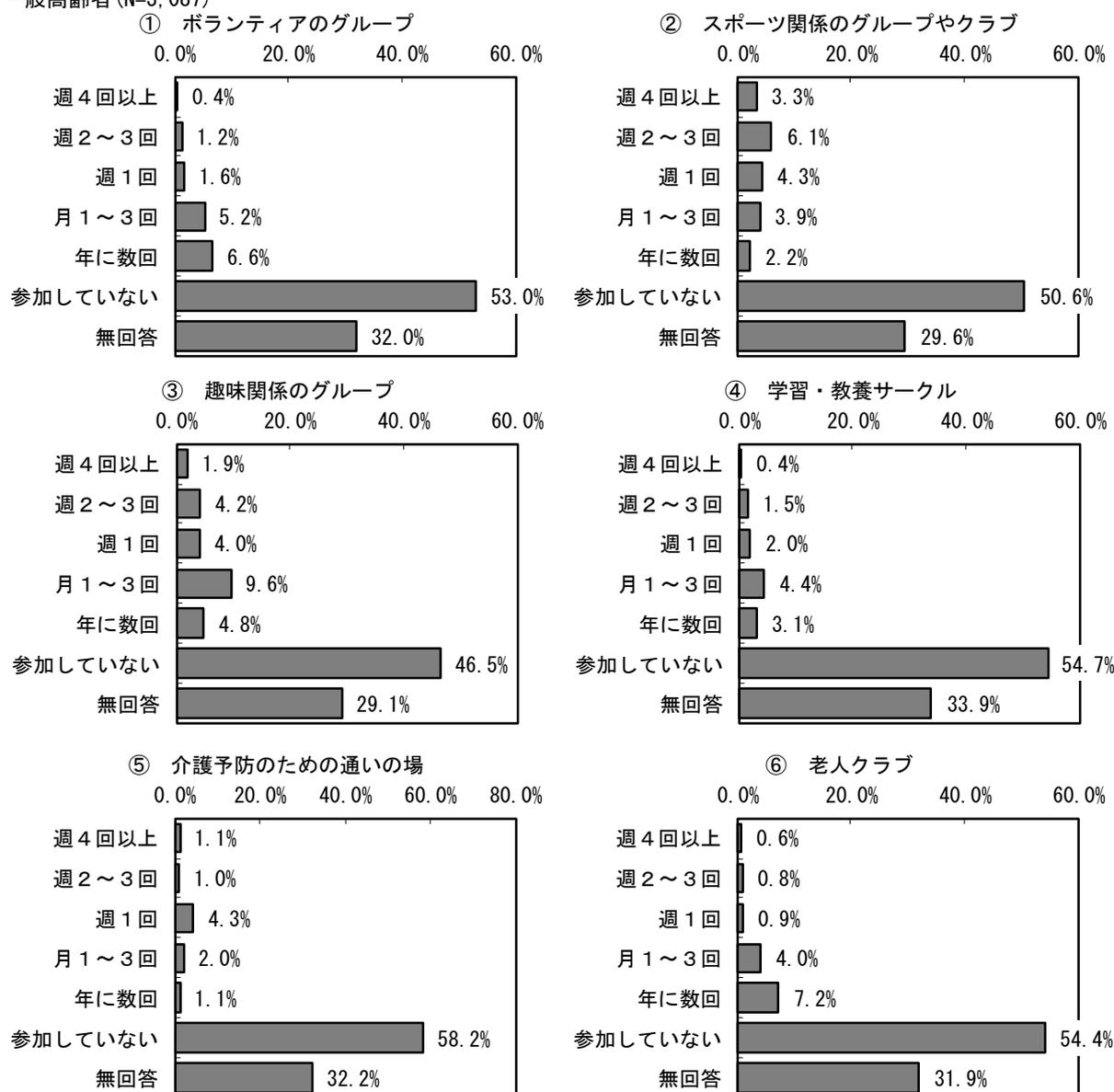
(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

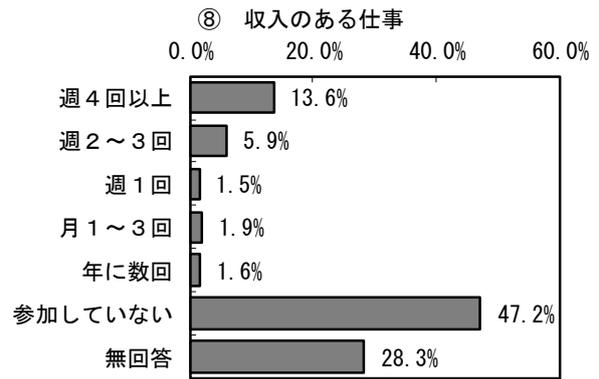
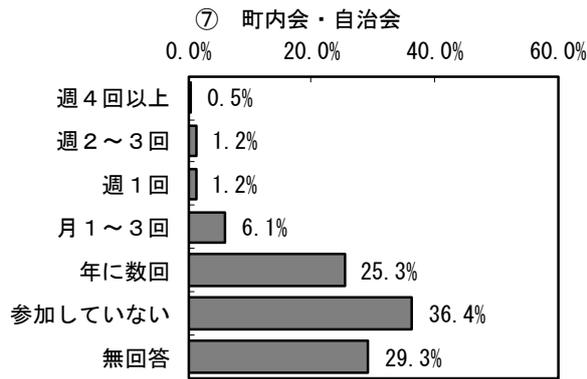
※① - ⑥それぞれに回答してください

会・グループ等への参加頻度についてみると、一般高齢者はいずれも「参加していない」が最も多く、趣味関係のグループ、町内会・自治会、収入のある仕事を除く各会・グループでは半数を超えています。町内会・自治会は「参加していない」が36.4%と相対的に低く、「年に数回」が25.3%となっていますまた、収入のある仕事は「週4回以上」が13.6%となっています。

図表 問5(1) 一般高齢者 会・グループ等への参加頻度

一般高齢者(N=3,087)

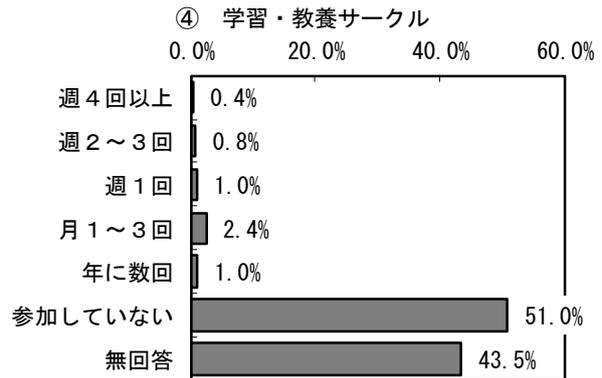
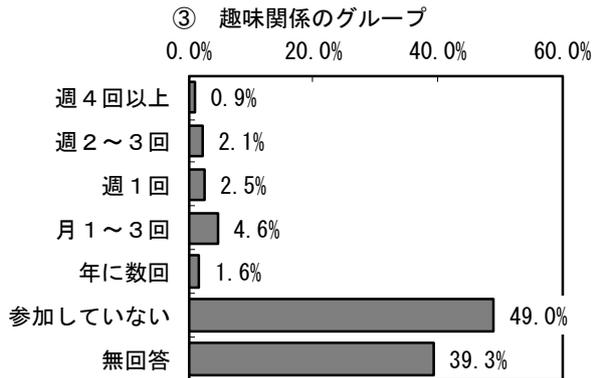
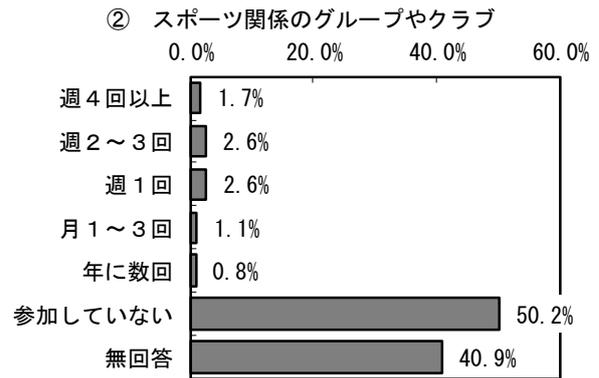
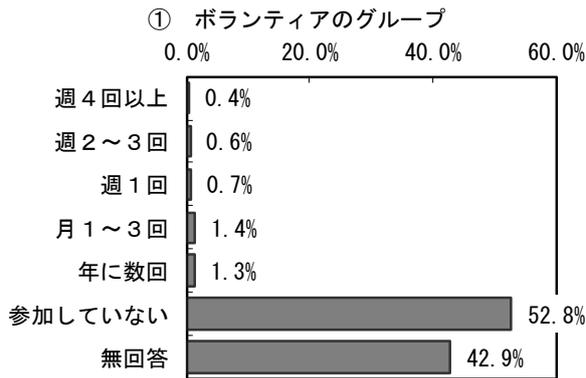


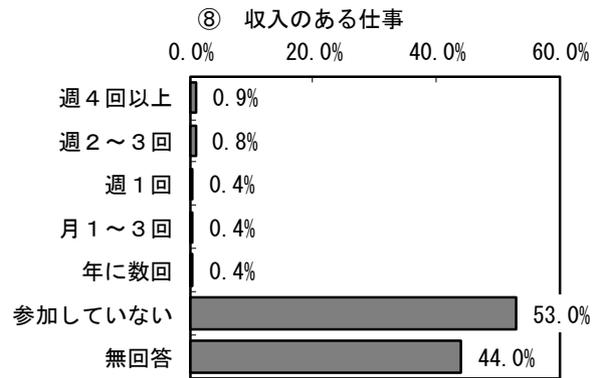
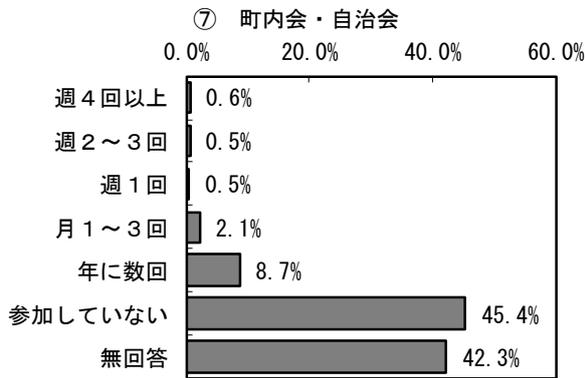
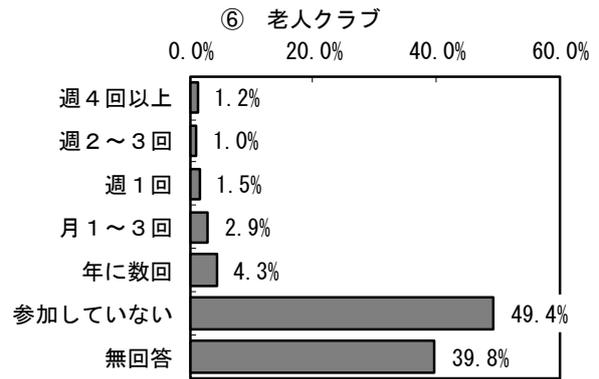
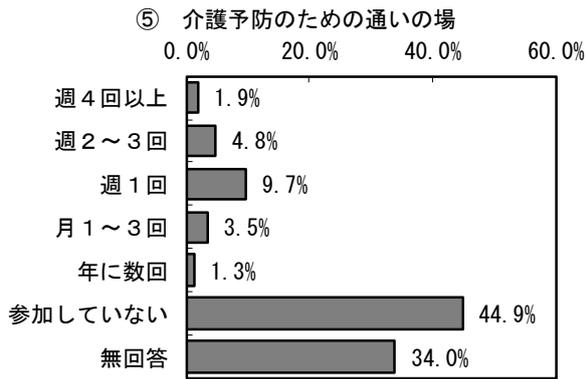


会・グループ等への参加頻度についてみると、要支援者はいずれも「参加していない」が最も多く、介護予防のための通いの場、町内会・自治会を除く各会・グループでは概ね半数を超えています。介護予防のための通いの場と町内会・自治会は「参加していない」が約45%と相対的に低く、前者は「週1回」が9.7%、後者は「年に数回」が8.7%となっています。

図表 問5 (1) 要支援者 会・グループ等への参加頻度

要支援者 (N=2,612)



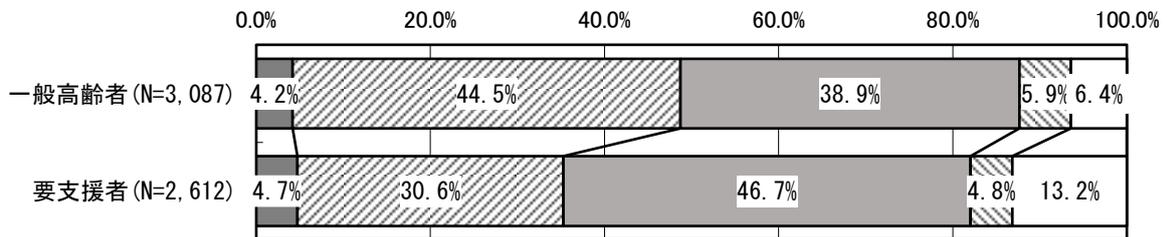


【地域住民によるグループ活動への参加意向（参加者として）】

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向についてみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計は一般高齢者が 48.7%、要支援者が 35.3%となっています。また、要支援者は「参加したくない」が 46.7%となっており、参加意向がある人の割合を上回っています。

図表 問5 (2) 地域住民によるグループ活動への参加意向_参加者として



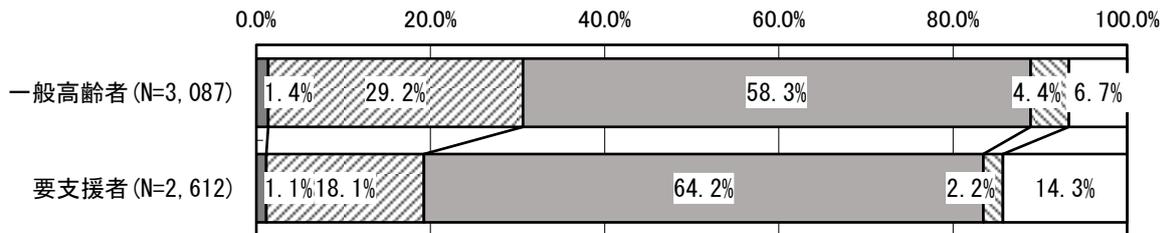
■是非参加したい □参加してもよい □参加したくない □既に参加している □無回答

【地域住民によるグループ活動への参加意向（企画・運営（お世話役）として）】

（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向についてみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計は一般高齢者が 30.6%、要支援者が 19.2%となっています。一般高齢者、要支援者ともに「参加したくない」が半数を超えています。

図表 問5（3） 地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向



■是非参加したい □参加してもよい □参加したくない □既に参加している □無回答

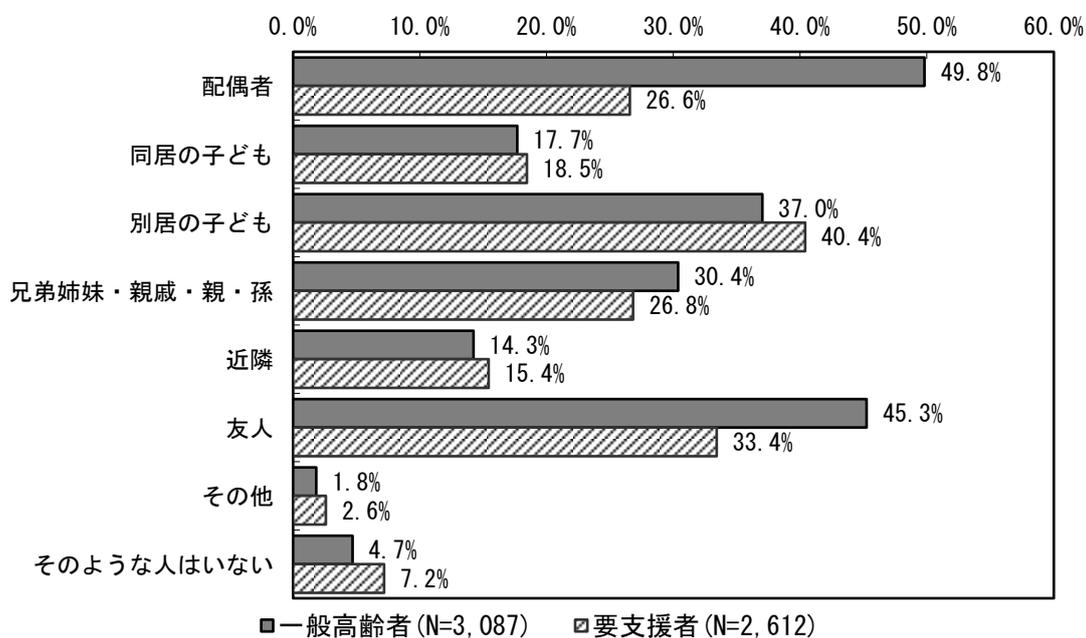
問6 たすけあいについて

【自分の心配事や愚痴を聞いてくれる人】

(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

心配事や愚痴を聞いてくれる人についてみると、一般高齢者は「配偶者」(49.8%)が最も多く、次いで「友人」(45.3%)、「別居の子ども」(37.0%)となっています。要支援者は「別居の子ども」(40.4%)が最も多く、次いで「友人」(33.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(26.8%)となっています。一方、「そのような人はいない」は要支援者が7.2%と1割近くを占めています。

図表 問6 (1) 自分の心配事や愚痴を聞いてくれる人(複数回答)

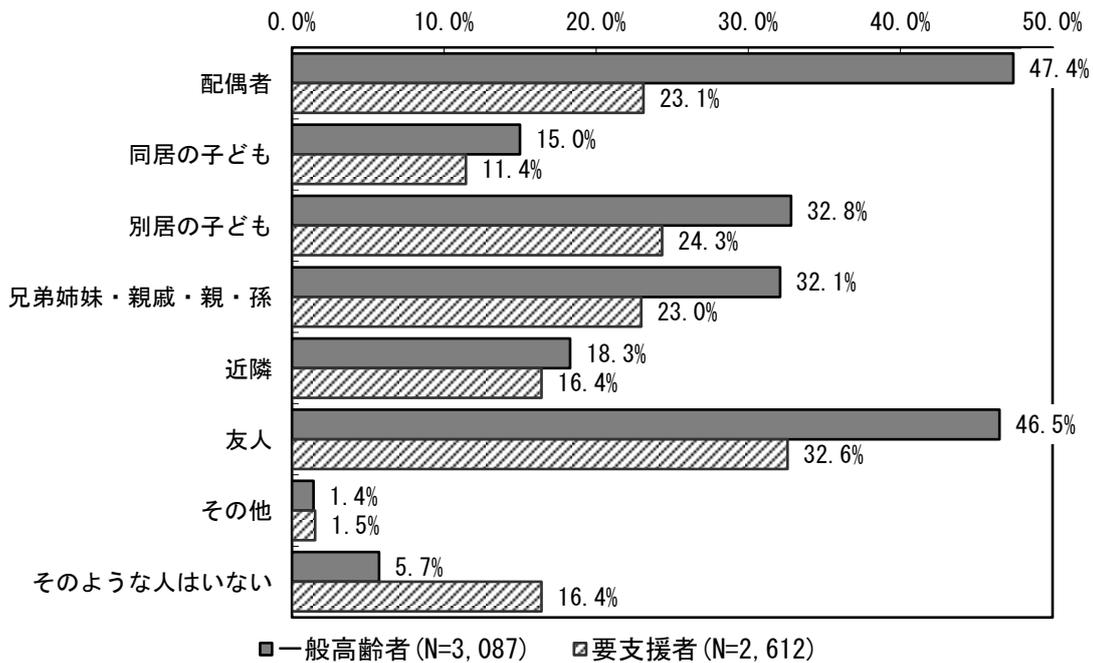


【自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人】

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)

自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人についてみると、一般高齢者は「配偶者」(47.4%)と「友人」(46.5%)が同程度で多く、次いで「別居の子ども」(32.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(32.1%)となっています。要支援者は「友人」(32.6%)、「別居の子ども」(24.3%)、「配偶者」(23.1%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(23.0%)となっています。一方、「そのような人はいない」は要支援者が16.4%となっています。

図表 問6(2) 自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人(複数回答)

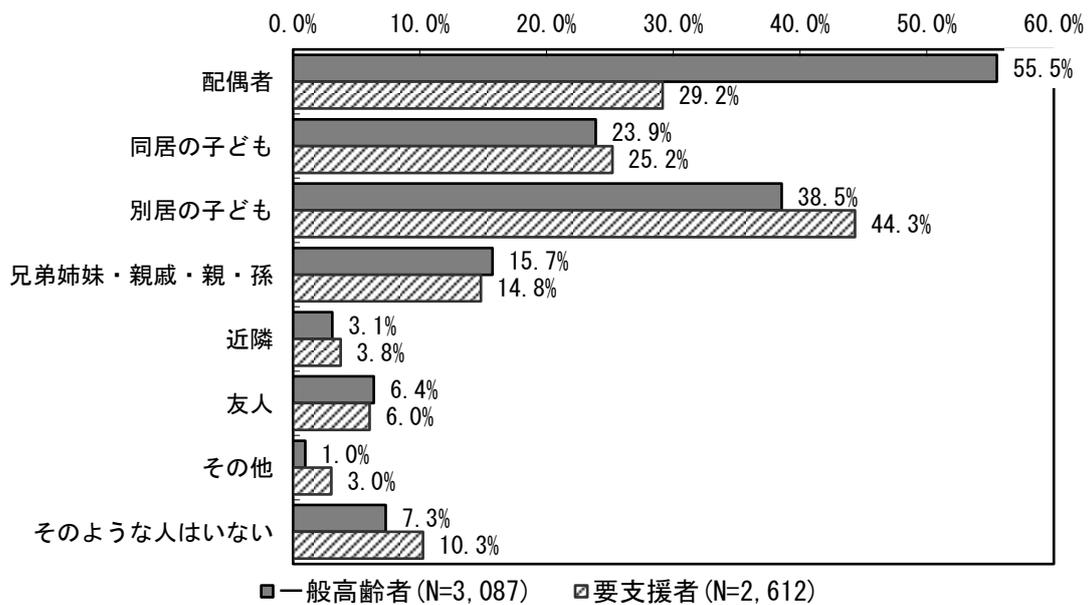


【病気の際に自分の看病や世話をしてくれる人】

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

病気の際に看病や世話をしてくれる人についてみると、一般高齢者は「配偶者」(55.5%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(38.5%)、「同居の子ども」(23.9%)となっています。要支援者は「別居の子ども」(44.3%)が最も多く、次いで「配偶者」(29.2%)、「同居の子ども」(25.2%)となっています。一方、「そのような人はいない」は一般高齢者が7.3%、要支援者が10.3%となっています。

図表 問6(3) 病気の際に自分の看病や世話をしてくれる人(複数回答)

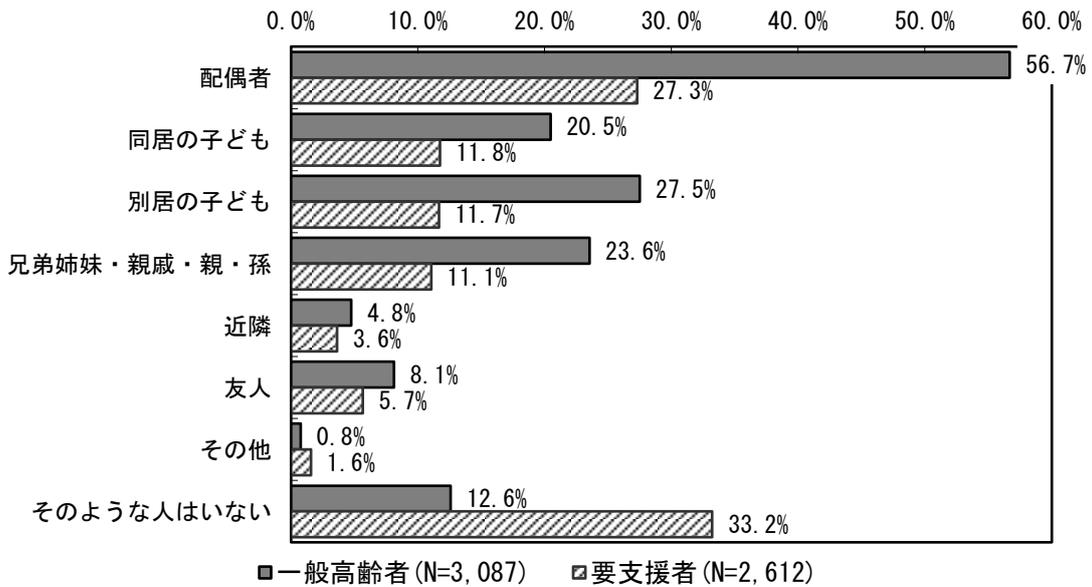


【自分が病気の際に看病や世話をしてくれる人】

(4) 反対に、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

自分が看病や世話をしてくれる人についてみると、一般高齢者は「配偶者」(56.7%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(27.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(23.6%)となっています。要支援者は「そのような人はいない」(33.2%)が最も多く、次いで「配偶者」(27.3%)、「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が約11%となっています。

図表 問6(4) 自分が看病や世話をしてくれる人(複数回答)



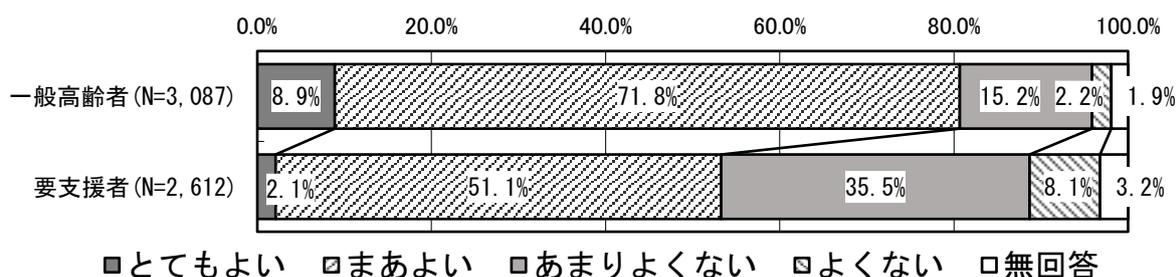
問7 健康について

【現在の健康状態】

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

現在の健康状態についてみると、「とてもよい」と「まあよい」の合計は一般高齢者が 80.7%、要支援者が 53.2%となっています。

図表 問7 (1) 現在の健康状態

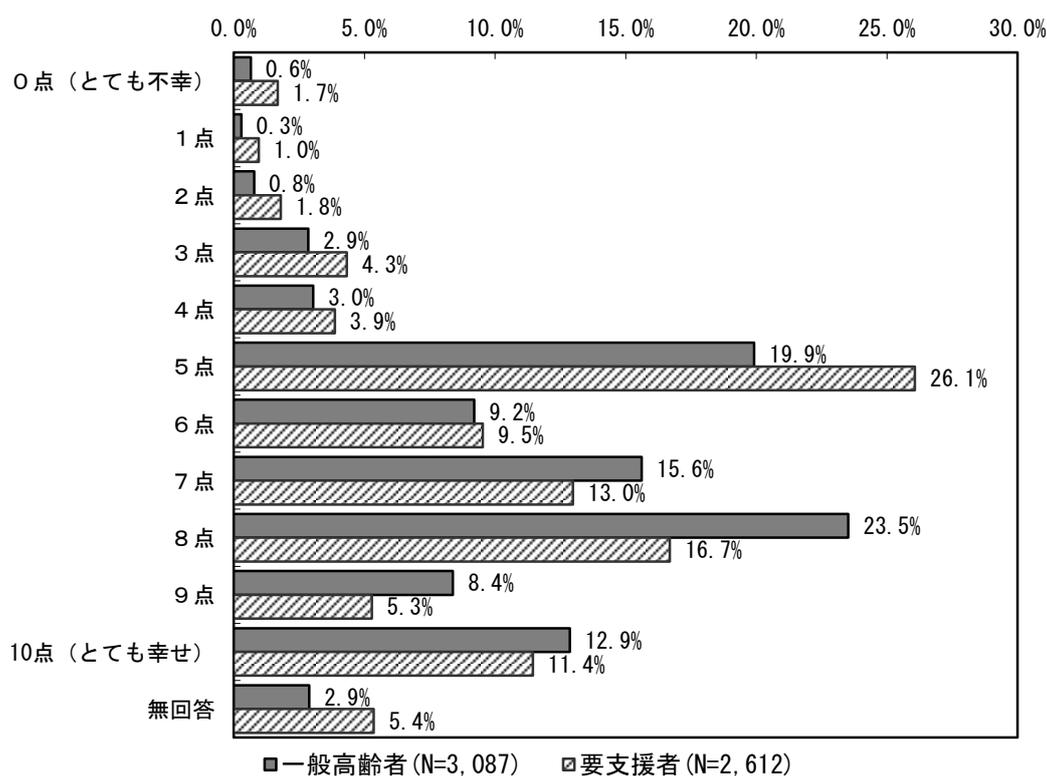


【現在の幸福度】

(2) あなたは、現在どの程度幸せですか(「とても不幸」を 0 点、「とても幸せ」を 10 点として、ご記入ください)

現在の幸福度についてみると、一般高齢者は「8点」(23.5%)が最も多く、要支援者は「5点」(26.1%)が最も多くなっています。また、一般高齢者は7点以上、要支援者は6点以上が過半数を占めています。

図表 問7 (2) 現在の幸福度

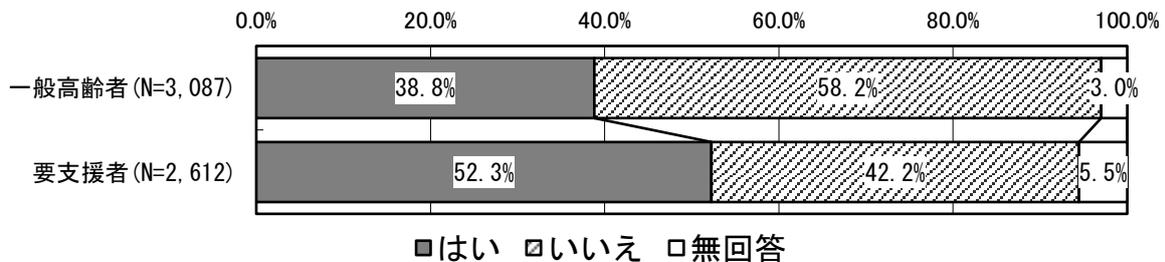


【気分が落ち込んだりゆううつな気持ちになること】

(3)この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

この1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかをみると、「はい」は一般高齢者が38.8%、要支援者は52.3%となっています。

図表 問7(3) この1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか

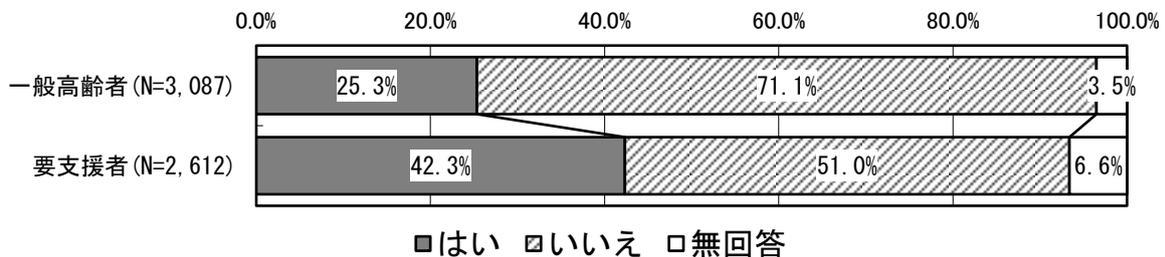


【物事に興味がわかなくなったり心から楽しめないこと】

(4)この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

この1か月間に物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがあったかをみると、「はい」は一般高齢者が25.3%、要支援者は42.3%となっています。

図表 問7(4) この1か月間に物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがあったか

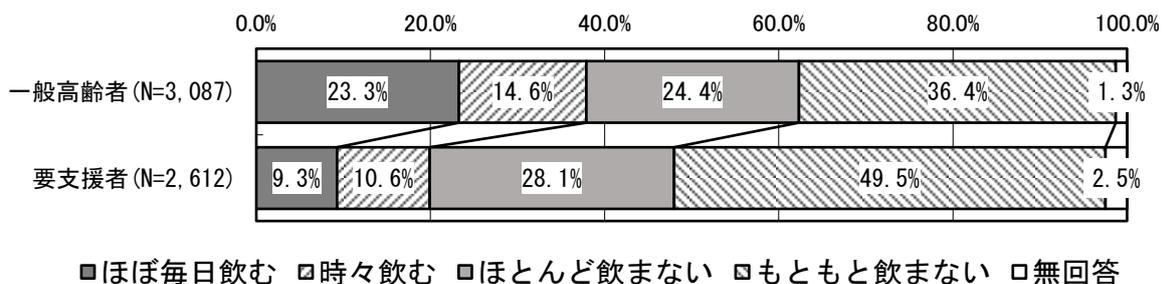


【飲酒状況】

(5)お酒は飲みますか

飲酒の状況についてみると、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」の合計は一般高齢者が37.9%、要支援者が19.9%となっています。

図表 問7(5) 飲酒状況

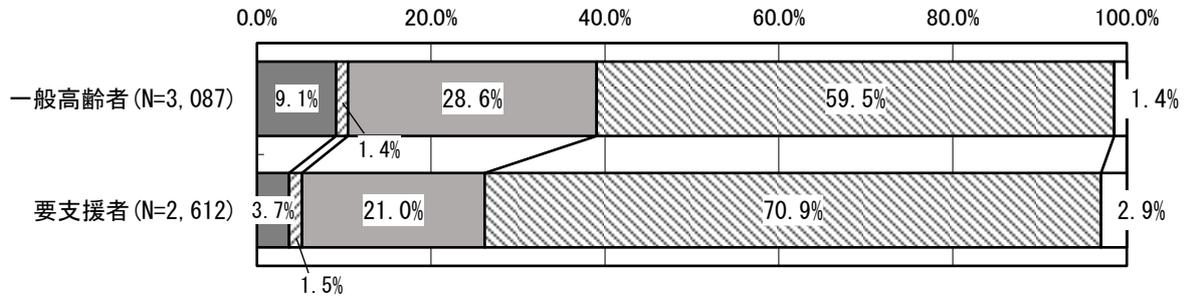


【喫煙状況】

(6) タバコは吸っていますか

喫煙の状況についてみると、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の合計は一般高齢者が10.5%、要支援者が5.2%となっています。

図表 問7(6) 喫煙状況



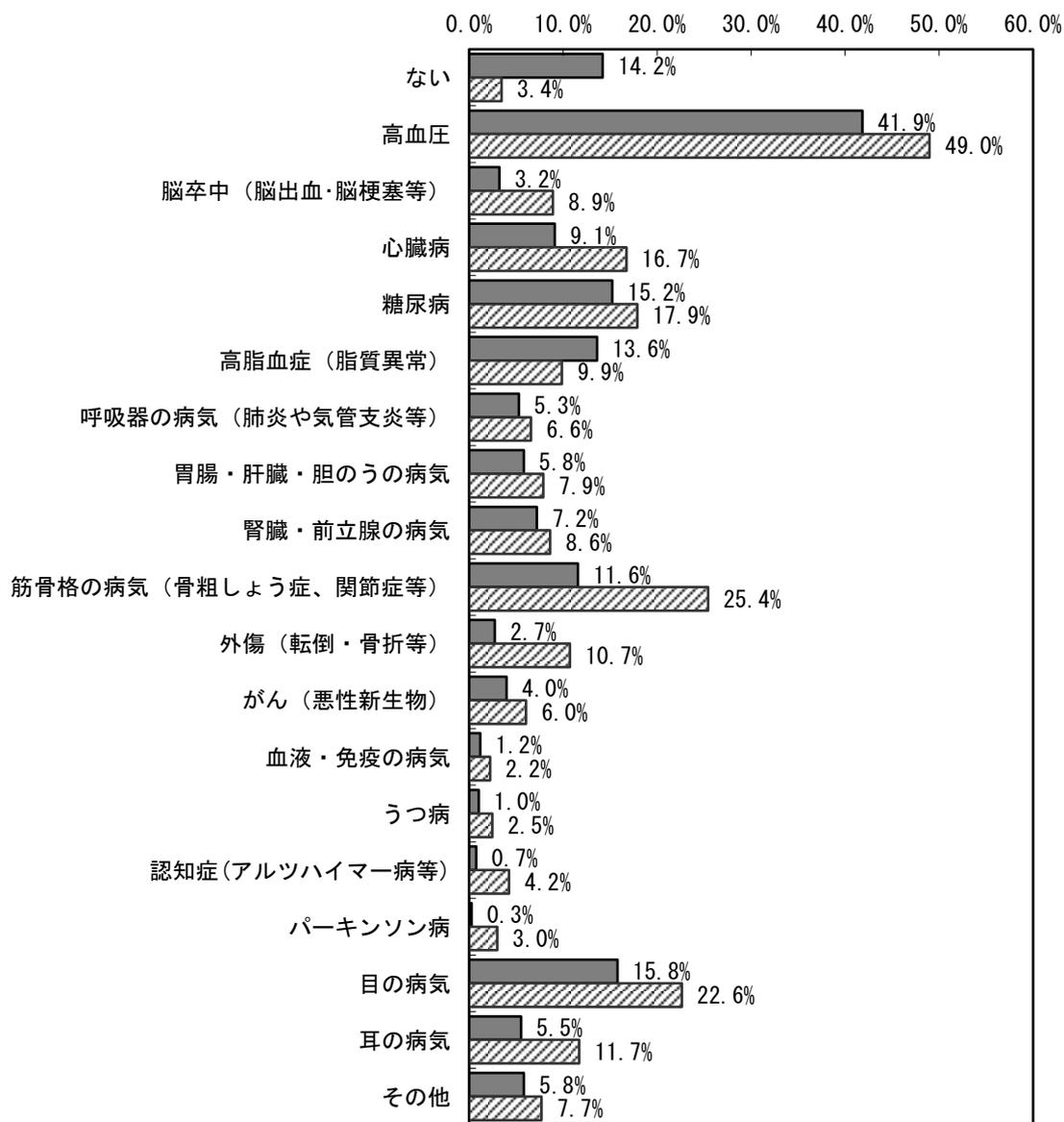
ほぼ毎日吸っている
 時々吸っている
 吸っていたがやめた
 もともと吸っていない
 無回答

【現在治療中の後遺症や病気】

(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(いくつでも)

現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、一般高齢者、要支援者ともに「高血圧」が最も多く4割以上を占めています。次いで一般高齢者は「目の病気」、「糖尿病」、要支援者は「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」、「目の病気」となっています。

図表 問7(7) 現在治療中、または後遺症のある病気(複数回答)



■一般高齢者(N=3,087) □要支援者(N=2,612)

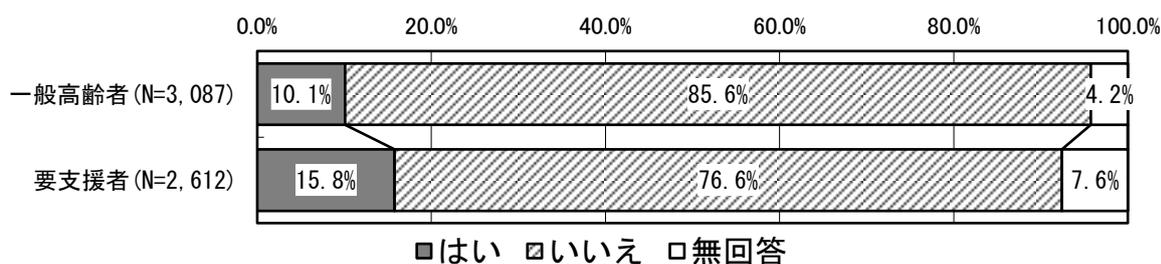
問8 認知症について

【認知症状】

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

自分または家族に認知症の症状があるかをみると、「はい」は一般高齢者が 10.1%、要支援者は 15.8%となっています。

図表 問8 (1) 自分または家族に認知症の症状があるか

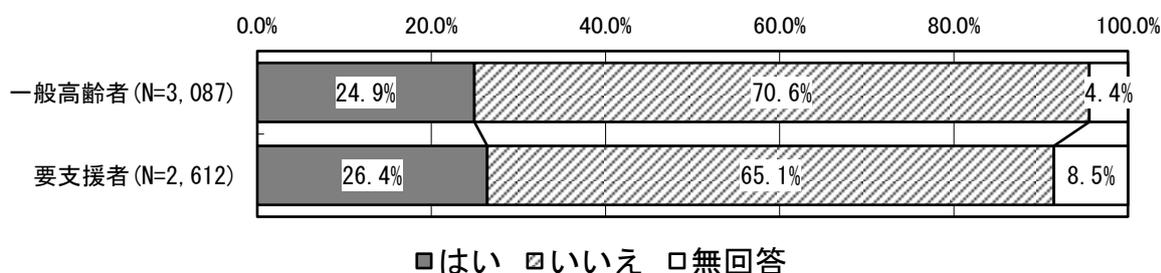


【認知症に関する相談窓口の認知状況】

(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

認知症に関する相談窓口を知っているかをみると、「はい」は一般高齢者が 24.9%、要支援者が 26.4%となっています。

図表 問8 (2) 認知症に関する相談窓口の認知状況



問9 介護予防への取組について

【介護予防の取組状況】

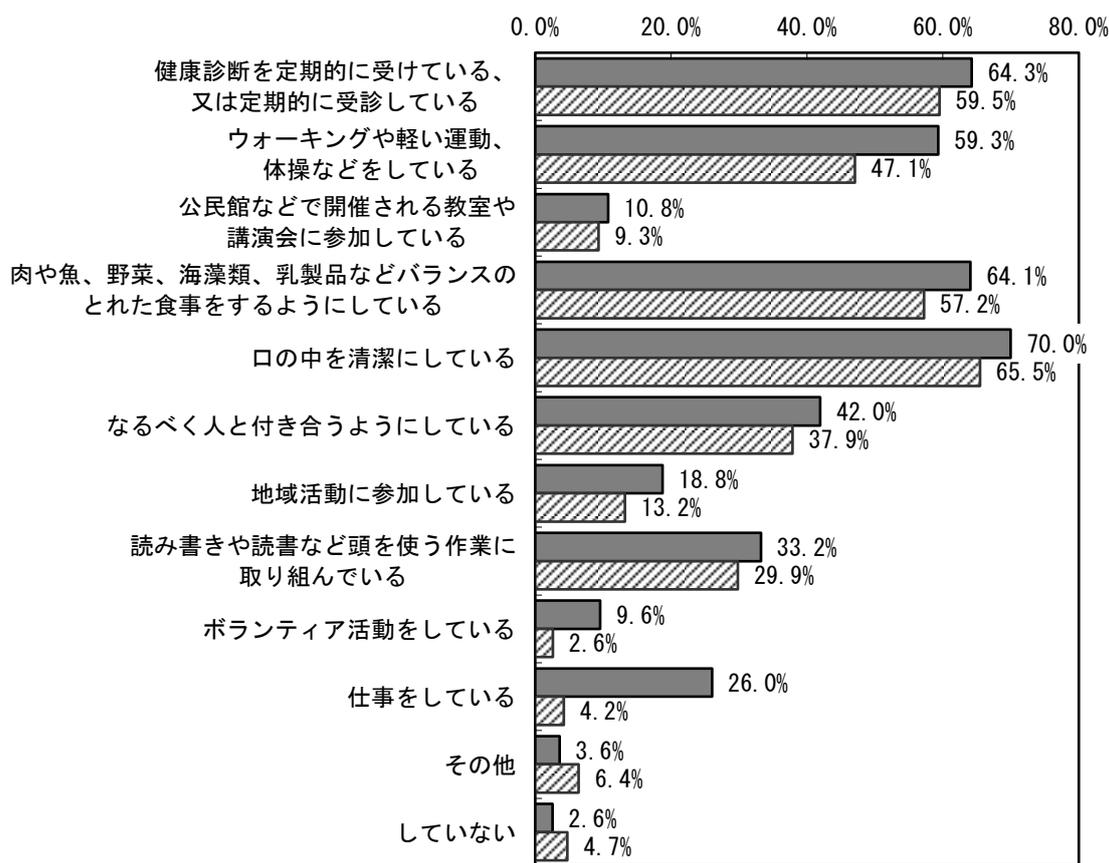
(1) 介護予防への取組についてお答えください

※「介護予防」とは、介護を受ける状態にならないように(または要介護度が進まないように)取り組むことを言います。

あなたは、普段から健康や介護予防のために何かしていることはありますか(いくつでも)

健康や介護予防のためにしていることについてみると、一般高齢者、要支援者ともに「口の中を清潔にしている(歯磨き、入れ歯の手入れ、うがいなど)」、「健康診断を定期的を受けている、又は定期的に受診している」、「肉や魚、野菜、海藻類、乳製品などバランスのとれた食事をするようにしている」の順に多くなっています。また、一般高齢者は「仕事をしている」が26.0%となっています。

図表 問9(1) 健康や介護予防のためにしていること(複数回答)



■一般高齢者(N=3,087) □要支援者(N=2,612)

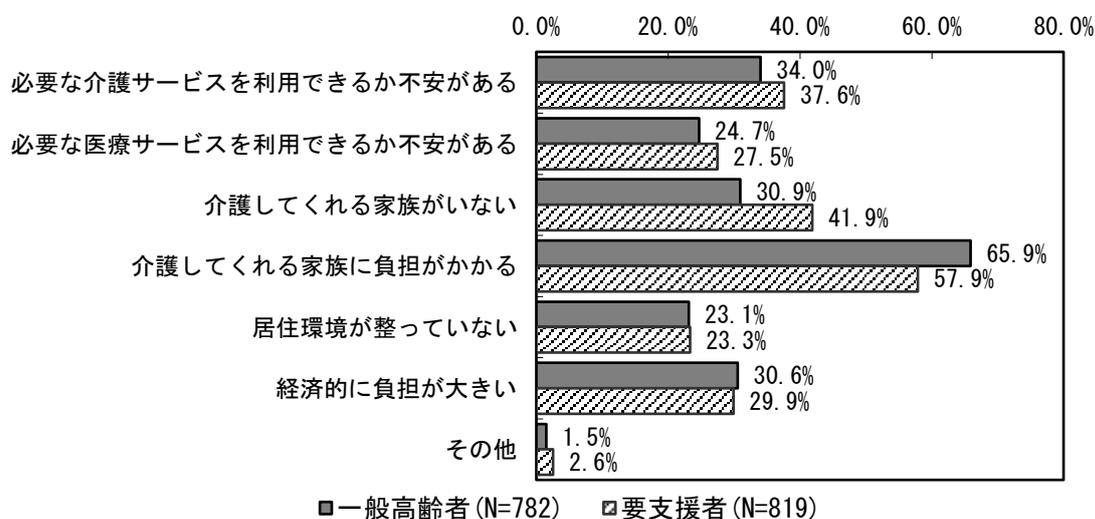
問 10 自宅での介護及び今後の生活場所について

【認知症や要介護状態での自宅生活の継続が不可能な理由】

(1) ①不可能だと思う具体的な理由は次のどれですか(いくつでも)

認知症や要介護状態で自宅生活の継続が不可能だと思う理由についてみると、一般高齢者、要支援者ともに「介護してくれる家族に負担がかかる」、「介護してくれる家族がいない」、「必要な介護サービスを利用できるか不安がある」が上位3項目を占めています。

図表 問 10 (1) 付問 認知症や要介護状態での自宅生活の継続が不可能だと思う理由(複数回答)

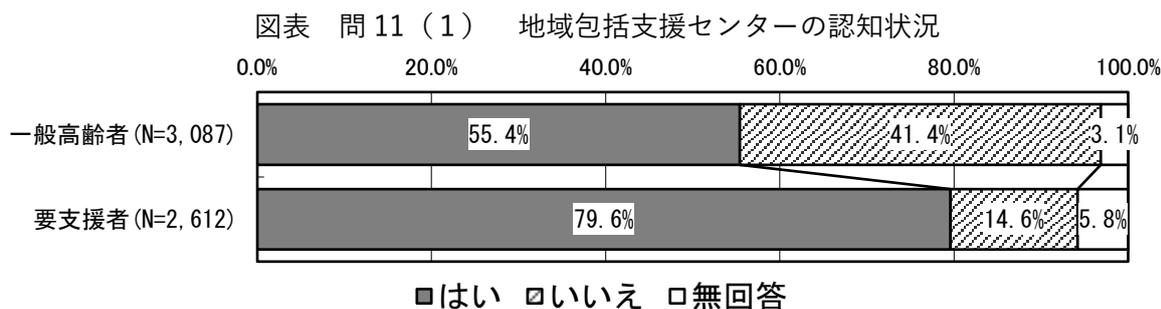


問 11 地域包括支援センターについて

【地域包括支援センターの認知状況】

(1) 地域包括支援センターを知っていますか

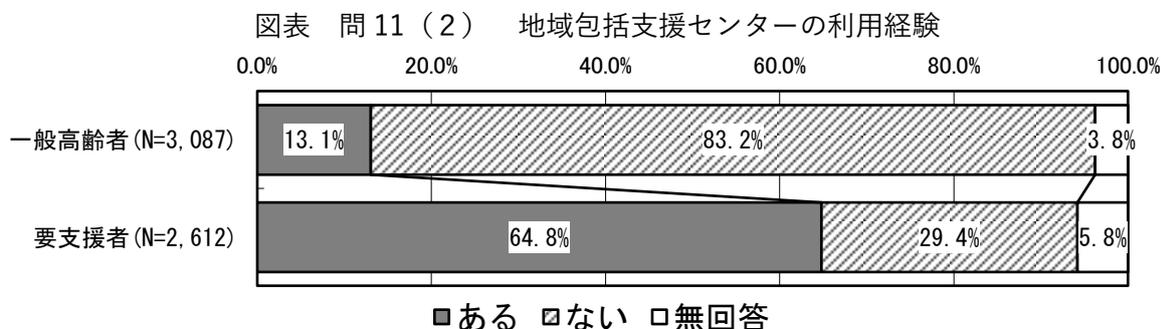
地域包括支援センターを知っているかをみると、「はい」は一般高齢者が 55.4%、要支援者が 79.6%となっています。



【地域包括支援センターの利用経験】

(2) 地域包括支援センターを利用したことがありますか

地域包括支援センターの利用したことがあるかをみると、「ある」は一般高齢者が 13.1%、要支援者が 64.8%となっています。



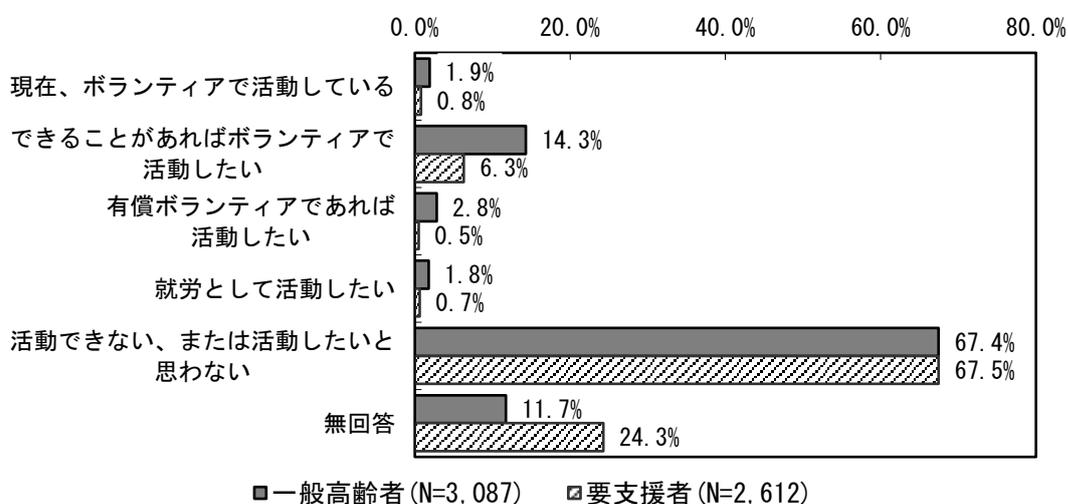
問 12 ボランティアについて

【介護支援の活動意向】

(2) あなたは、介護支援として高齢者の自宅や介護サービス施設で活動したいと思いますか

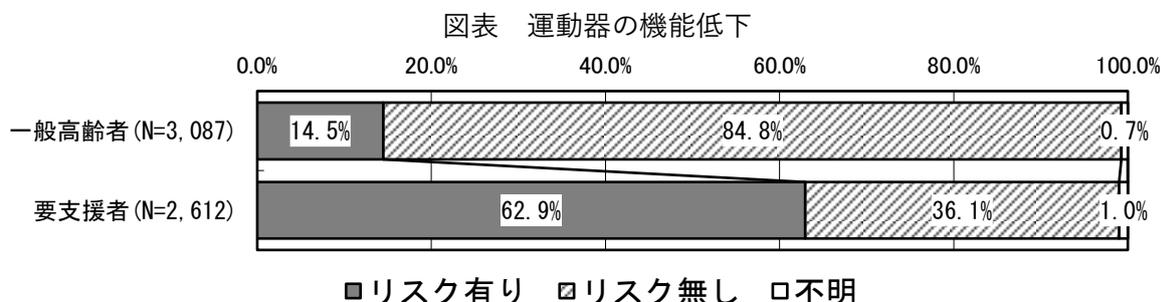
介護支援の活動意向についてみると、一般高齢者、要支援者ともに「活動できない、または活動したいと思わない」が最も多く約 67%となっています。また、「できることがあればボランティアで活動したい」、「有償ボランティアであれば活動したい」、「就労として活動したい」の合計は一般高齢者は 18.9%、要支援者が 7.5%となっています。

図表 問 12 (2) 介護支援の活動意向

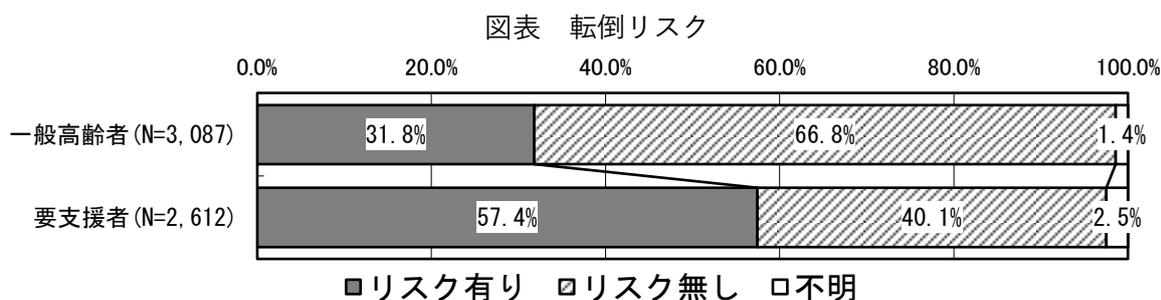


基本チェックリスト判定結果

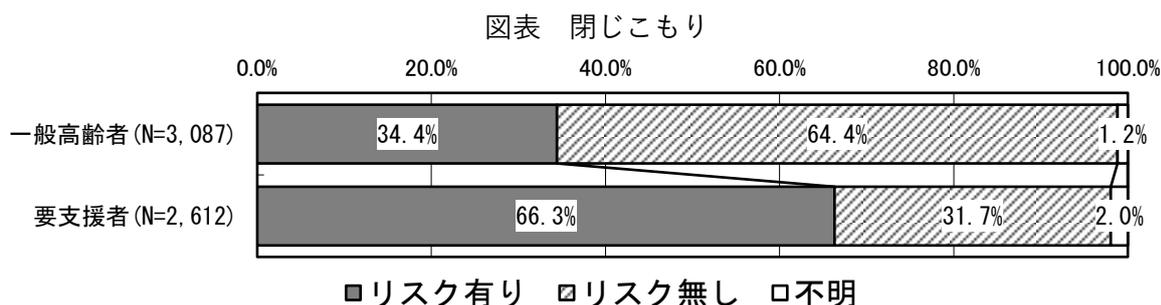
運動器の機能低下についてみると、「リスク有り」は一般高齢者が 14.5%、要支援者が 62.9% となっています。



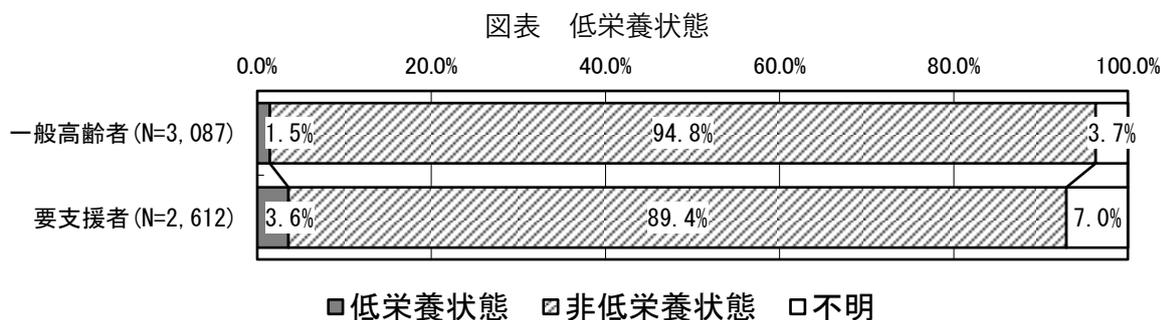
転倒リスクについてみると、「リスク有り」は一般高齢者が 31.8%、要支援者が 57.4% となっています。



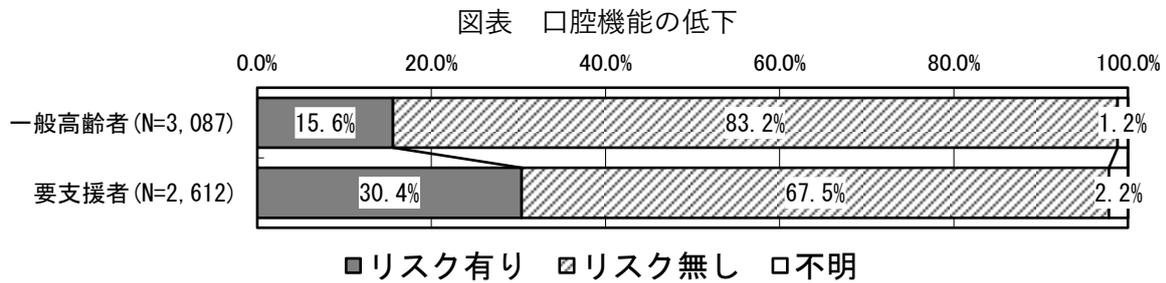
閉じこもりについてみると、「リスク有り」は一般高齢者が 34.4%、要支援者が 66.3% となっています。



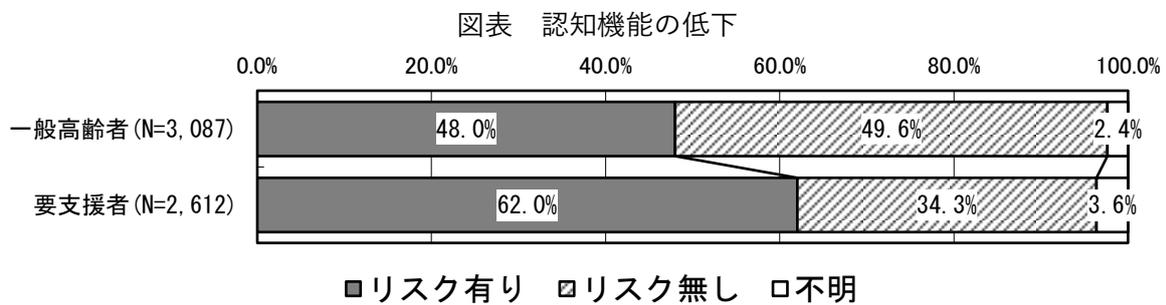
低栄養状態についてみると、「低栄養状態」は一般高齢者が 1.5%、要支援者が 3.6% となっています。



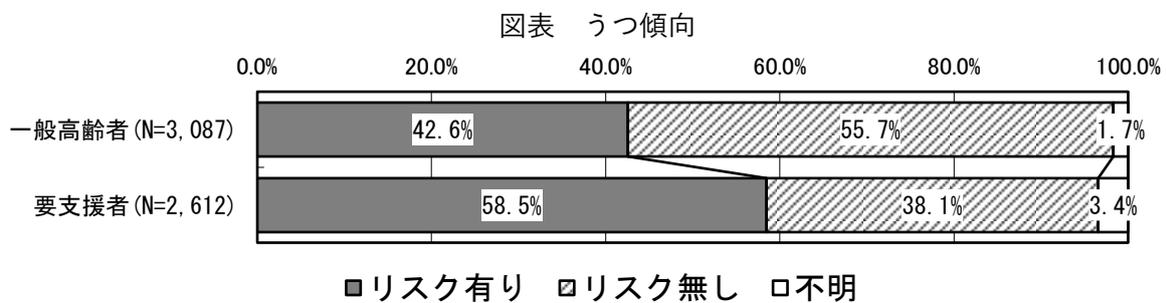
口腔機能の低下についてみると、「リスク有り」は一般高齢者が 15.6%、要支援者が 30.4%となっています。



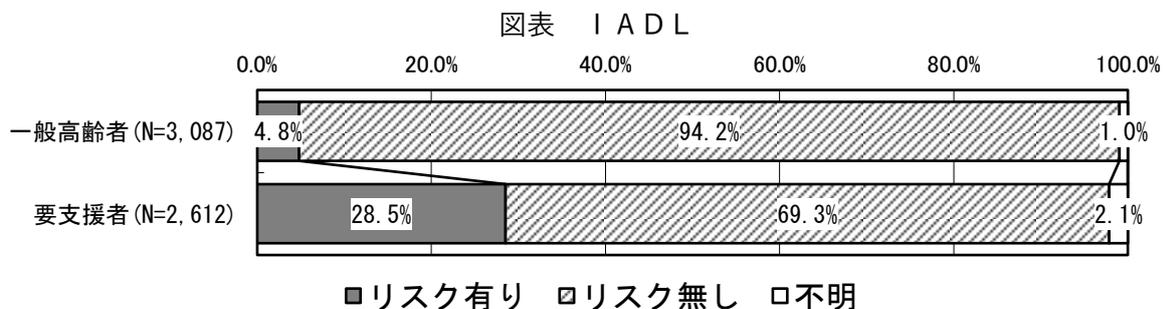
認知機能の低下についてみると、「リスク有り」は一般高齢者が 48.0%、要支援者が 62.0%となっています。



うつ傾向についてみると、「リスク有り」は一般高齢者が 42.6%、要支援者が 58.5%となっています。



IADLについてみると、「リスク有り」は一般高齢者が 4.8%、要支援者が 28.5%となっています。



Ⅲ. 在宅介護実態調査の結果

回答者の基本属性

【性別】

図表 回答者の性別

	回答数	構成比
男性	197	34.1%
女性	381	65.9%
合計	578	100.0%

【年齢】

図表 回答者の年齢

	回答数	構成比
70歳未満	26	4.5%
70歳代	118	20.4%
80歳代	286	49.5%
90歳以上	148	25.6%
合計	578	100.0%

【性別年齢別】

図表 回答者の性別年齢別

	70歳未満	70歳代	80歳代	90歳以上	合計
男性	15 7.6%	52 26.4%	94 47.7%	36 18.3%	197 100.0%
女性	11 2.9%	66 17.3%	192 50.4%	112 29.4%	381 100.0%
合計	26 4.5%	118 20.4%	286 49.5%	148 25.6%	578 100.0%

【要介護度】

図表 回答者の要介護度

	回答数	構成比
要支援	186	32.2%
要介護1・2	270	46.7%
要介護3以上	115	19.9%
非該当等	7	1.2%
合計	578	100.0%

【性別×要介護度】

図表 回答者の性別×要介護度

	要支援	要介護1・2	要介護3以上	非該当等	合計
男性	51 25.9%	101 51.3%	41 20.8%	4 2.0%	197 100.0%
女性	135 35.4%	169 44.4%	74 19.4%	3 0.8%	381 100.0%
合計	186 32.2%	270 46.7%	115 19.9%	7 1.2%	578 100.0%

【年齢×要介護度】

図表 回答者の年齢×要介護度

	要支援	要介護 1・2	要介護3 以上	非該当等	合計
70歳未満	6	16	4	0	26
	23.1%	61.5%	15.4%	0.0%	100.0%
70歳代	46	47	23	2	118
	39.0%	39.8%	19.5%	1.7%	100.0%
80歳代	107	122	53	4	286
	37.4%	42.7%	18.5%	1.4%	100.0%
90歳以上	27	85	35	1	148
	18.2%	57.4%	23.6%	0.7%	100.0%
合計	186	270	115	7	578
	32.2%	46.7%	19.9%	1.2%	100.0%

【サービス利用の組み合わせ】

図表 サービス利用の組み合わせ

	回答数	構成比
未利用	147	25.4%
訪問系のみ	109	18.9%
通所系のみ	171	29.6%
短期系のみ	3	0.5%
訪問+通所	110	19.0%
通所+短期	22	3.8%
訪問+通所+短期	10	1.7%
小規模多機能	4	0.7%
看護多機能	2	0.3%
合計	578	100.0%

【サービスの利用状況×要介護度】

図表 サービスの利用状況×要介護度

	要支援	要介護 1・2	要介護3 以上	非該当等	合計
未利用	84	44	14	5	147
	57.1%	29.9%	9.5%	3.4%	100.0%
訪問系のみ	35	45	29	0	109
	32.1%	41.3%	26.6%	0.0%	100.0%
訪問系を含む組 み合わせ	25	66	29	0	120
	20.8%	55.0%	24.2%	0.0%	100.0%
通所系・短期系 のみ	42	112	40	2	196
	21.4%	57.1%	20.4%	1.0%	100.0%
小規模多機能	0	2	2	0	4
	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
看護多機能	0	1	1	0	2
	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
合計	186	270	115	7	578
	32.2%	46.7%	19.9%	1.2%	100.0%

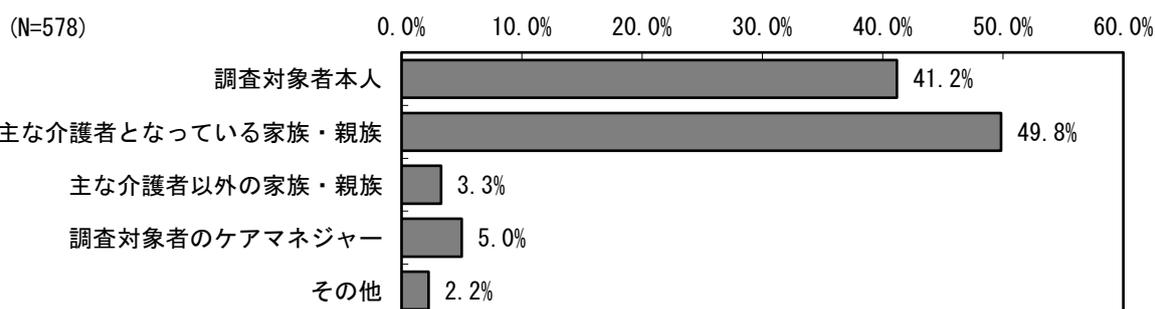
A票 基本調査項目

【調査票（A票）の回答者】

【A票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか】（複数選択可）

調査票の回答者についてみると、「主な介護者となっている家族・親族」（49.8%）が最も多く、次いで「調査対象者本人」（41.2%）、「調査対象者のケアマネジャー」（5.0%）となっています。

図表 調査票（A票）の回答者（複数回答）

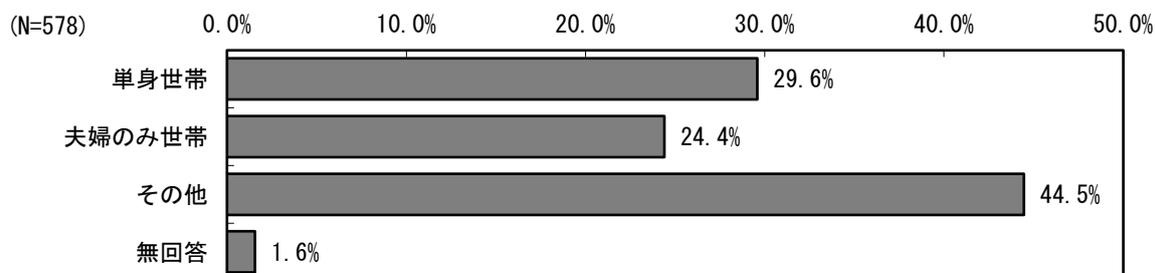


【世帯類型】

問1 [A1] 世帯類型について、ご回答ください。（1つを選択）

世帯の状況についてみると、「その他」（44.5%）が多く、次いで「単身世帯」（29.6%）、「夫婦のみ世帯」（24.4%）となっています。

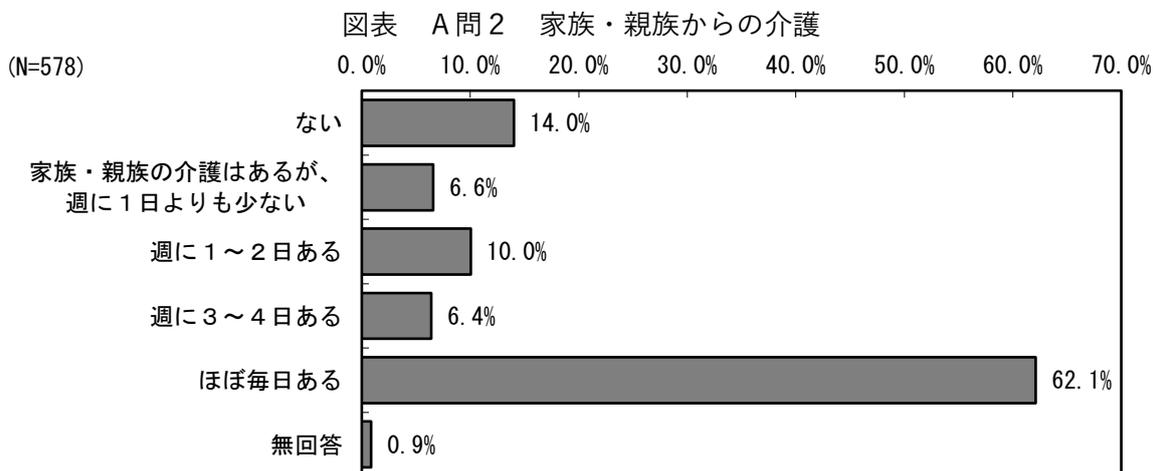
図表 A問1 世帯類型



【家族・親族からの介護】

問2[A2] ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。(同居されていない子どもや親族等からの介護を含みます。)(1つを選択)

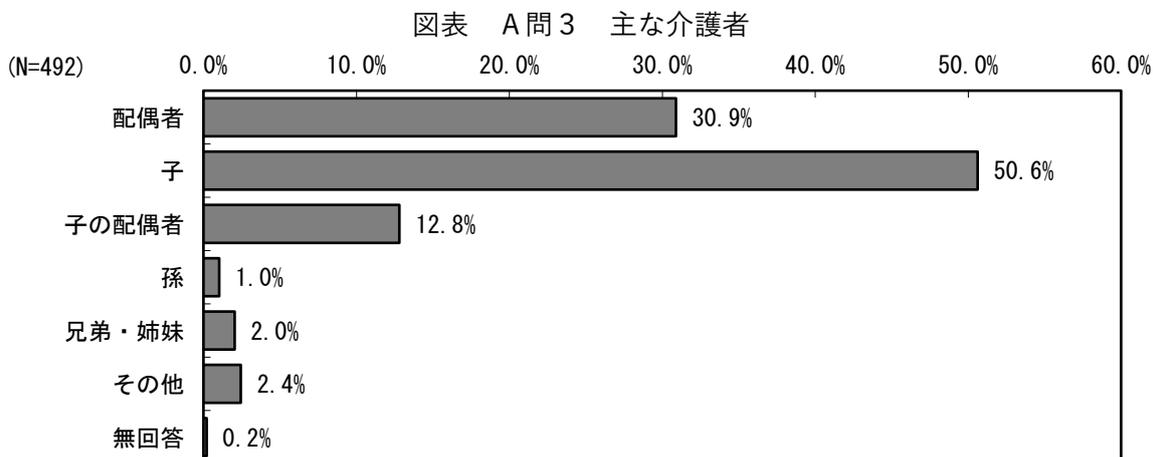
家族・親族からの介護についてみると、「ほぼ毎日ある」(62.1%)が最も多く、次いで「ない」(14.0%)、「週に1～2日ある」(10.0%)となっています。



【主な介護者】

問3[A3] 主な介護者の方は、どなたですか。(1つを選択)

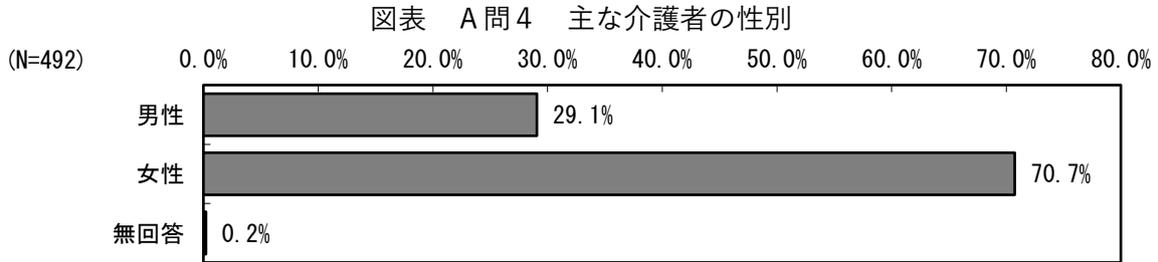
主な介護者についてみると、「子」(50.6%)が最も多く、次いで「配偶者」(30.9%)、「子の配偶者」(12.8%)となっています。



【主な介護者の性別】

問4[A4] 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(1つを選択)

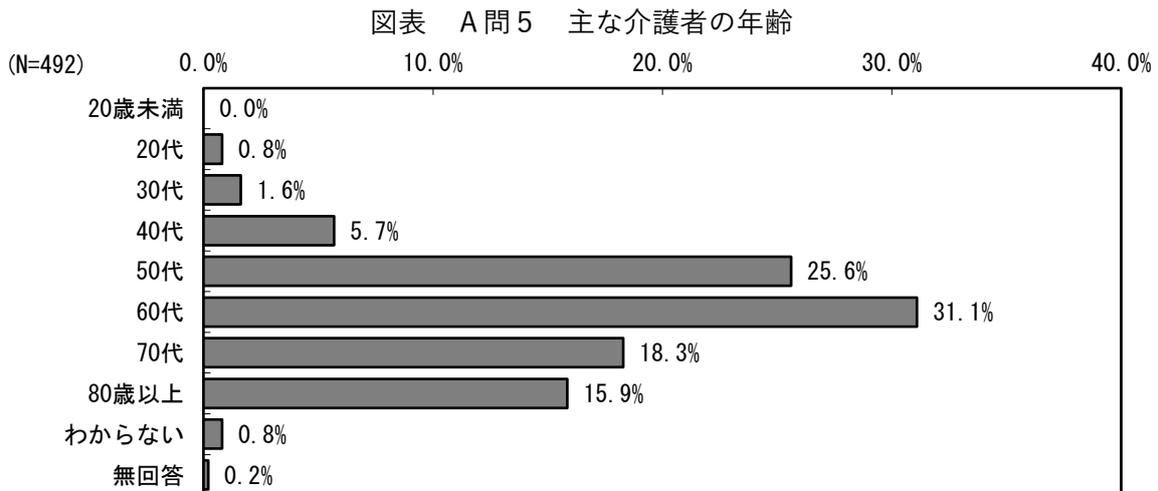
主な介護者の性別についてみると、「女性」が70.7%、「男性」が29.1%、「無回答」が0.2%となっています。



【主な介護者の年齢】

問5[A5] 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(1つを選択)

主な介護者の年齢についてみると、「60代」(31.1%)が最も多く、次いで「50代」(25.6%)、「70代」(18.3%)となっています。



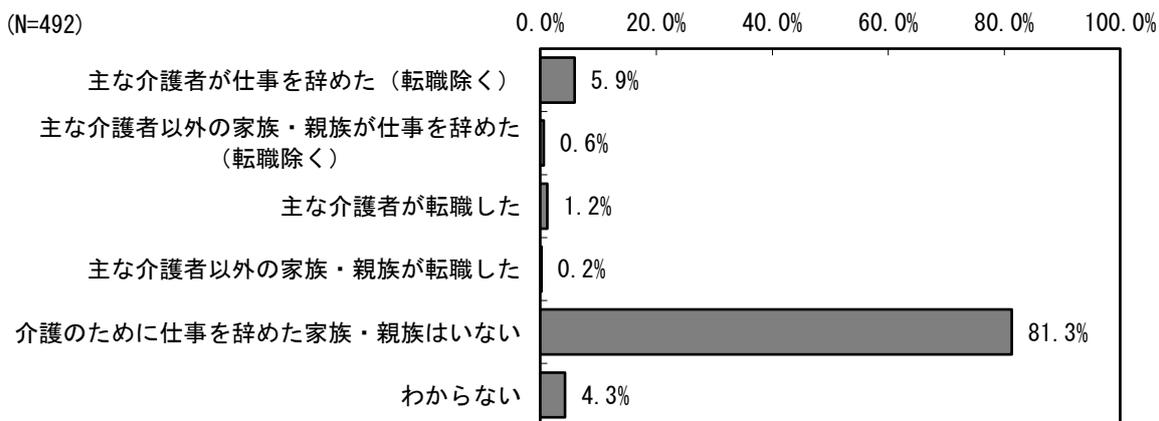
【介護者の離職・転職状況】

問6[A7] ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた方は、いらっしゃいますか。(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。)(複数選択可)

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

介護者の離職状況についてみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」(81.3%)が最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」(5.9%)、「わからない」(4.3%)となっています。

図表 A問6 介護者の離職状況(複数回答)

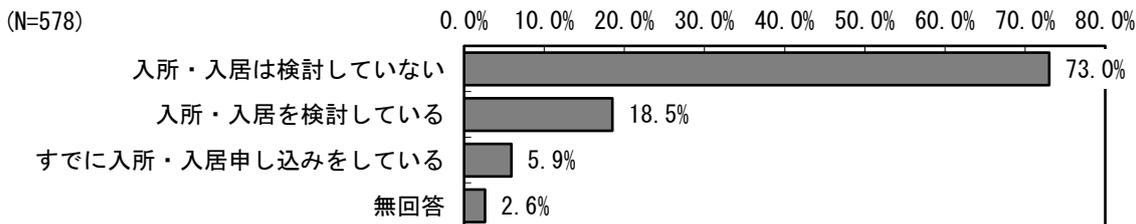


【施設等への入所・入居の検討状況】

問8[A10] 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。(1つを選択)

施設等への入所・入居の検討状況についてみると、「入所・入居は検討していない」(73.0%)が多く、次いで「入所・入居を検討している」(18.5%)、「すでに入所・入居申し込みをしている」(5.9%)となっています。

図表 A問8 施設等への入所・入居の検討状況



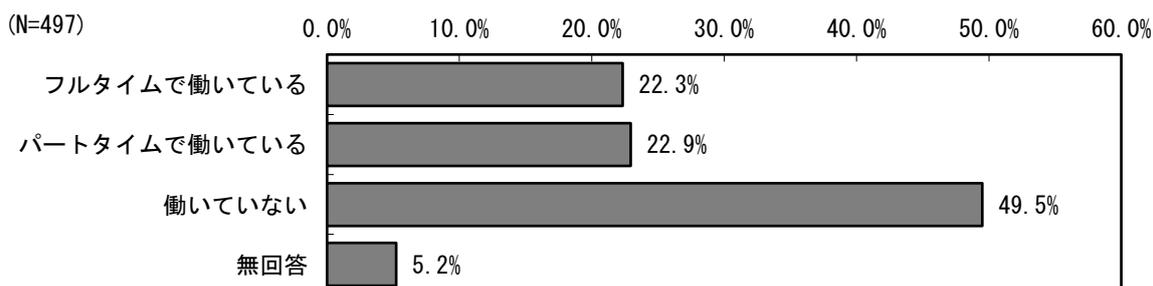
B票 主な介護者の方について

【主な介護者の勤務形態】

問1〔B1〕 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1つを選択)

主な介護者の勤務形態についてみると、「働いていない」(49.5%)が多く、次いで「パートタイムで働いている」(22.9%)、「フルタイムで働いている」(22.3%)となっています。

図表 B問1 主な介護者の勤務形態

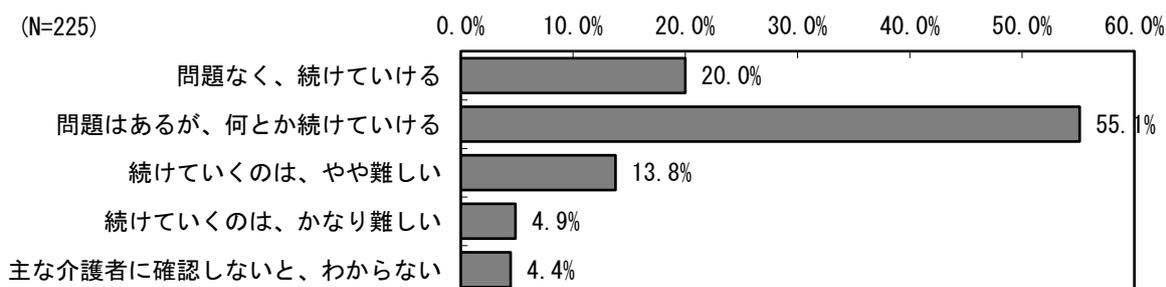


【仕事と介護の両立可能性】

問3〔B4〕 問1で「1.」「2.」と回答された方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(複数選択可)

仕事と介護の両立が可能かをみると、「問題はあるが、何とか続けていける」(55.1%)が最も多く、次いで「問題なく、続けていける」(20.0%)、「続けていくのは、やや難しい」(13.8%)となっています。

図表 B問3 仕事と介護を両立できるか(複数回答)

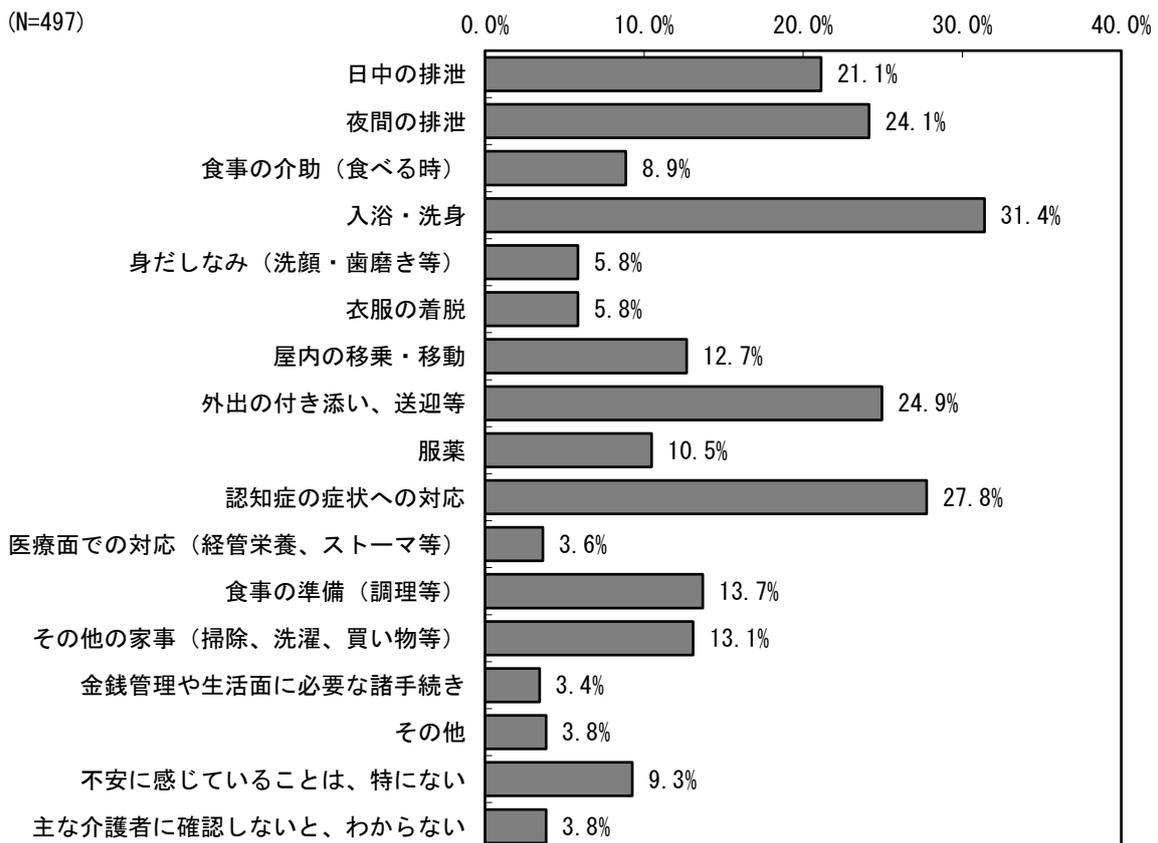


【主な介護者が不安に感じる介護等】

問4〔B5〕 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。（1番～17番のうち、3つまで選択可）

主な介護者が不安に感じる介護等についてみると、「入浴・洗身」（31.4%）が最も多く、次いで「認知症の症状への対応」（27.8%）、「外出の付き添い、送迎等」（24.9%）となっています。

図表 B問4 主な介護者が不安に感じる介護等（3つ以内で複数回答）

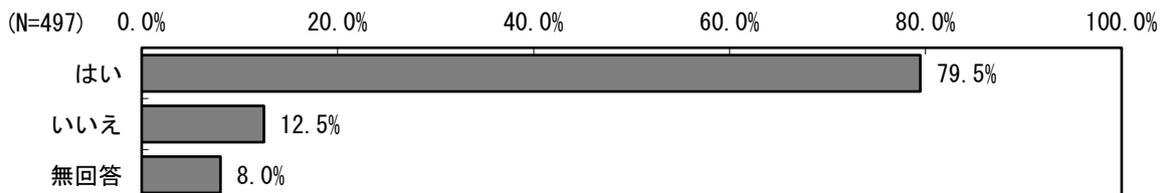


【地域包括支援センターの認知状況】

問5 地域包括支援センターを知っていますか。

地域包括支援センターを知っているかをみると、「はい」は79.5%となっています。

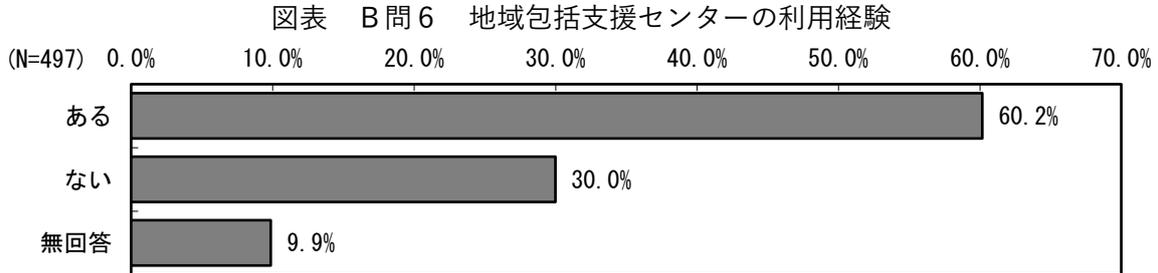
図表 B問5 地域包括支援センターの認知状況



【地域包括支援センターの利用経験】

問6 地域包括支援センターを利用したことがありますか。

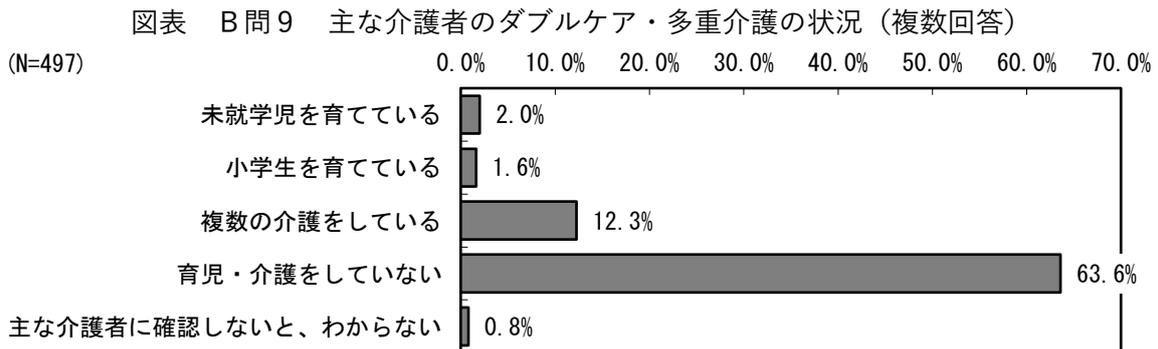
地域包括支援センターの利用経験についてみると、「ある」は60.2%となっています。



【主な介護者のダブルケア・多重介護の状況】

問9 主な介護者の方は、現在、次の状況に当てはまりますか。(複数選択可)

育児・介護の状況についてみると、「育児・介護をしていない」(63.6%)が最も多く、次いで「複数の介護(ご自身と配偶者の親を介護しているなど)をしている」(12.3%)、「未就学児(小学校入学前までの子ども・孫)を育てている」(2.0%)となっています。



ダブルケア・多重介護に関するアンケート

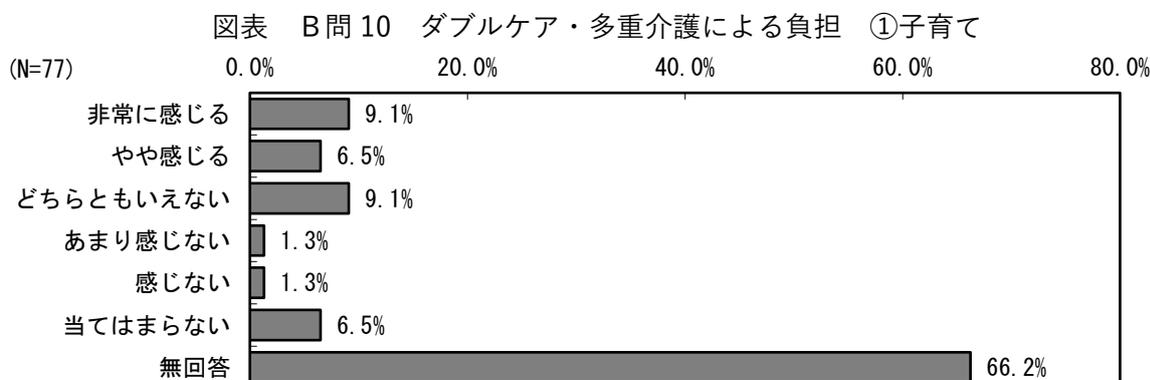
※B票問9で「未就学児（小学校入学前までの子ども・孫）を育てている」「小学生を育てている」「複数の介護（ご自身と配偶者の親を介護しているなど）をしている」を選択された方が調査対象です。

【ダブルケア・多重介護による負担】

問 10 あなたはダブルケア・多重介護を行い、精神的、体力的あるいは経済的に負担を感じますか。（1つを選択）

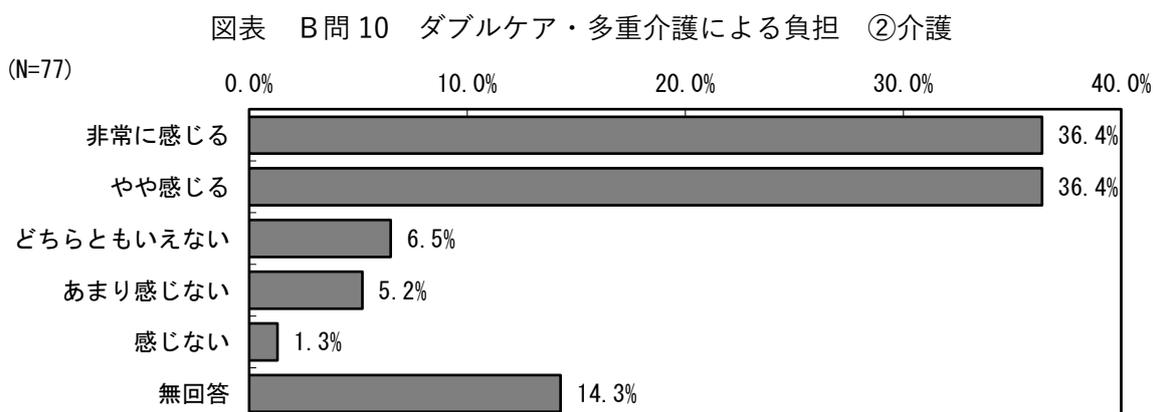
①子育て

ダブルケア・多重介護による負担のうち、「子育て」についてみると、「無回答」が 66.2%となっており、「当てはまらない」（6.5%）と合わせると 7割以上を占めています。



②介護

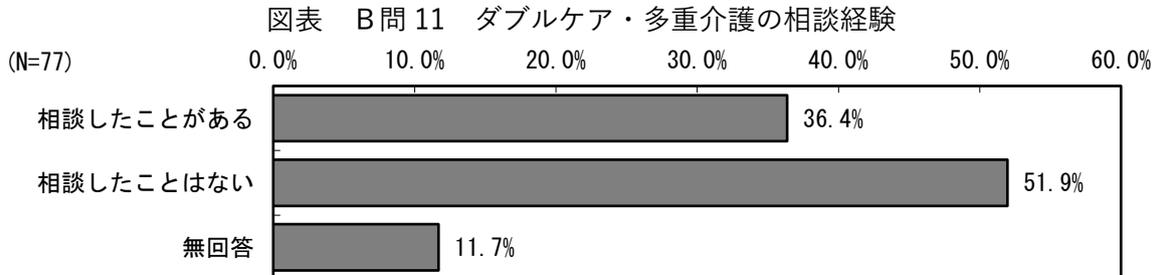
ダブルケア・多重介護による負担のうち、「介護」についてみると、「やや感じる」「非常に感じる」がともに 36.4%で最も多く、次いで「どちらともいえない」（6.5%）となっています。「非常に感じる」と「やや感じる」の合計は 72.8%となっています。



【ダブルケア・多重介護の相談経験】

問 11 あなたはこれまでに、ダブルケア・多重介護であることを相談したことはありますか。(1つを選択)

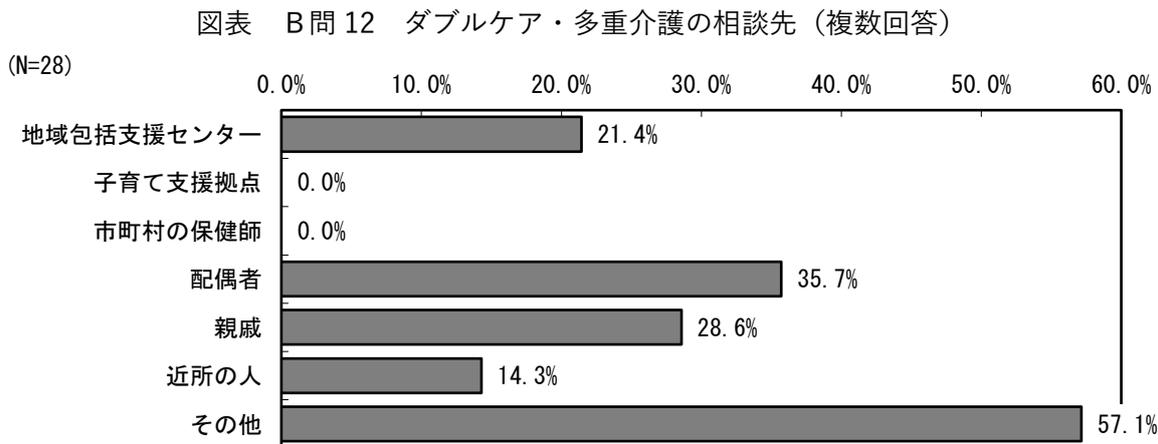
ダブルケア・多重介護の相談についてみると、「相談したことがある」は 36.4%となっています。



【ダブルケア・多重介護の相談先】

問 12 問 11 で「1.」と回答された方にお伺いします。どこ(誰)に相談されましたか。(複数選択可)

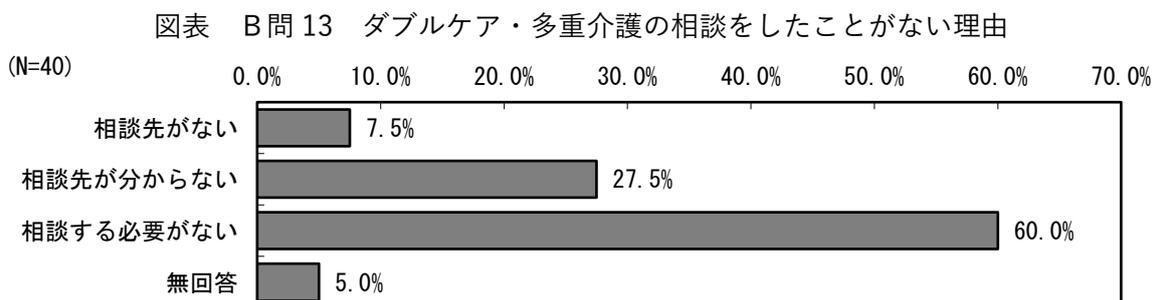
ダブルケア・多重介護の相談先についてみると、「その他」(57.1%)が最も多く、次いで「配偶者」(35.7%)、「親戚」(28.6%)となっています。



【ダブルケア・多重介護の相談をしたことがない理由】

問 13 問 11 で「2.」と回答された方にお伺いします。相談したことがないのはなぜですか。(1つを選択)

ダブルケア・多重介護の相談をしない理由についてみると、「相談する必要がない」(60.0%)が最も多く、次いで「相談先が分からない」(27.5%)、「相談先がない」(7.5%)となっています。

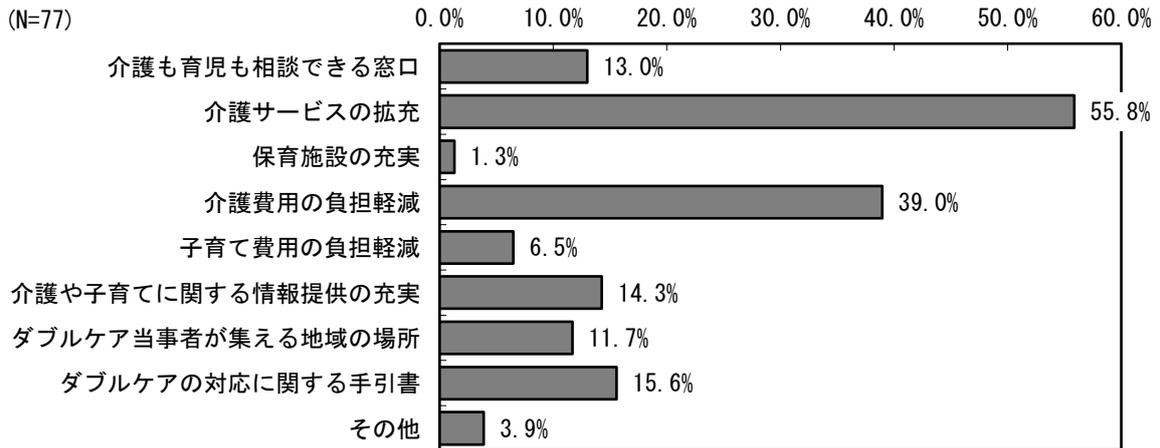


【ダブルケア・多重介護に必要な支援】

問 14 ダブルケア・多重介護には、どんな支援策が必要だと思いますか。(複数選択可)

ダブルケア・多重介護に必要な支援についてみると、「介護サービスの拡充」(55.8%)が最も多く、次いで「介護費用の負担軽減」(39.0%)、「ダブルケアの対応に関する手引書」(15.6%)、「介護や子育てに関する情報提供の充実」(14.3%)となっています。

図表 B問 14 ダブルケア・多重介護に必要な支援(複数回答)

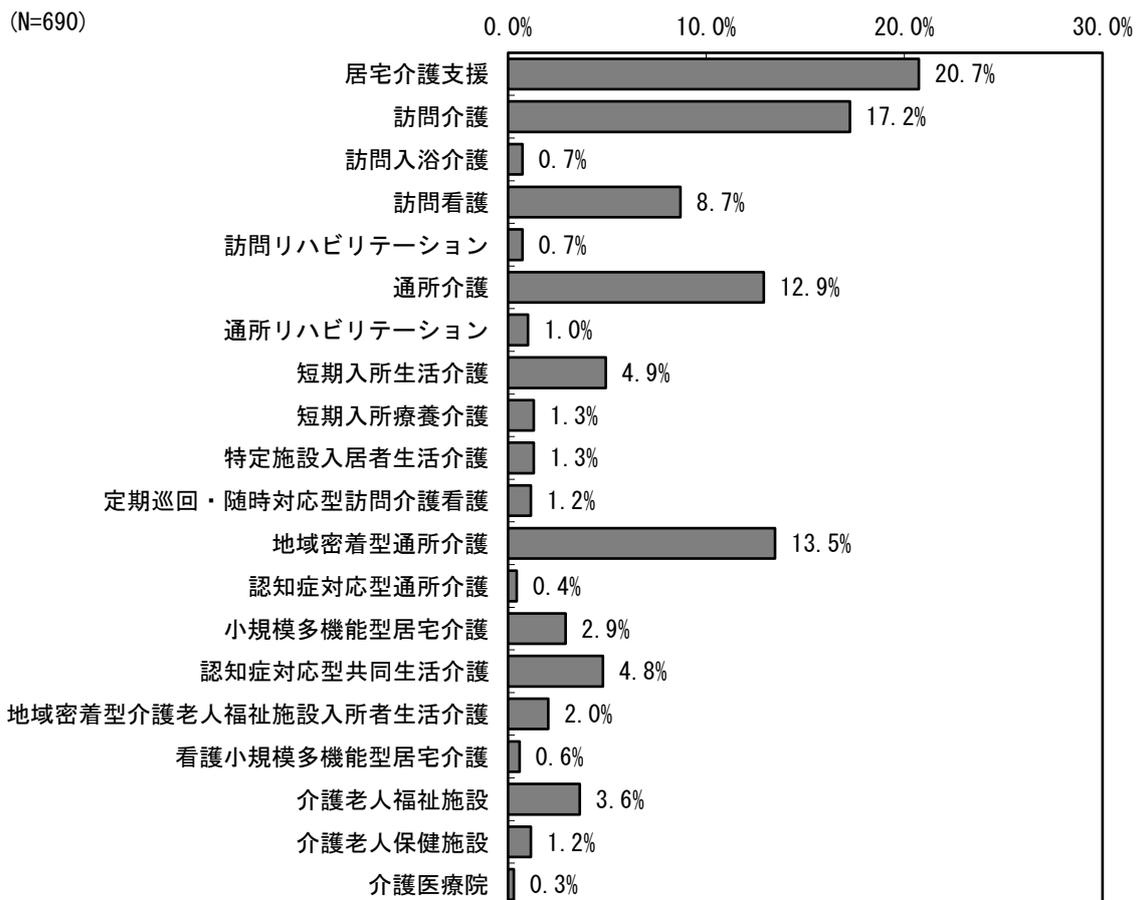


IV. 介護人材実態調査の結果

【サービス種別】

サービス種別についてみると、「居宅介護支援」(20.7%)が最も多く、次いで「訪問介護」(17.2%)、「地域密着型通所介護」(13.5%)となっています。

図表 サービス種別



職員の状況等について

【職員数】

問1 貴事業所の職員数(正規・非正規・男女)をご記入ください。

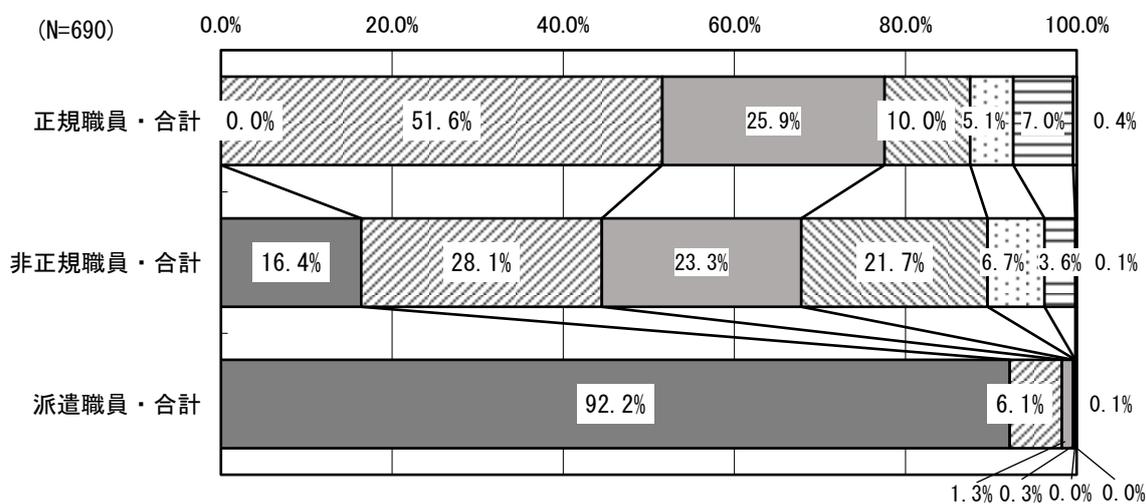
職員数の合計をみると、男女合計では「10～19人」(30.6%)が最も多く、次いで「5～9人」(23.0%)、「1～4人」(21.0%)となっています。男女別にみると、男性は「1～4人」(52.3%)が最も多く、女性は「10～19人」(30.0%)が最も多くなっています。

正規職員数をみると、男女合計では「1～4人」(51.6%)が最も多く、次いで「5～9人」(25.9%)、「10～19人」(10.0%)となっています。また、男女別にみると男女ともに「1～4人」が最も多く、男性は52.5%、女性は56.4%となっています。

非正規職員数をみると、男女合計では「1～4人」(28.1%)が最も多く、次いで「5～9人」(23.3%)、「10～19人」(21.7%)となっています。また、男女別にみると男性は「0人」(58.1%)が最も多く、女性は、「1～4人」(32.0%)が最も多くなっています。

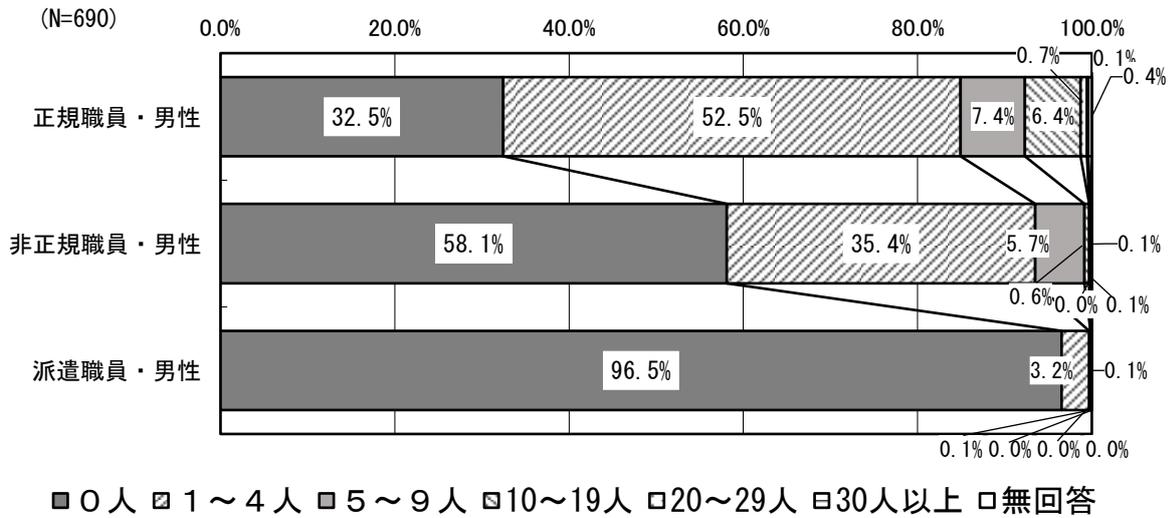
派遣職員数をみると、男女合計では「0人」(92.2%)が最も多く、次いで「1～4人」(6.1%)、「5～9人」(1.3%)となっています。また、男女別にみると男女ともに「0人」が最も多く、男性は96.5%、女性は93.2%となっています。

図表 男女合計

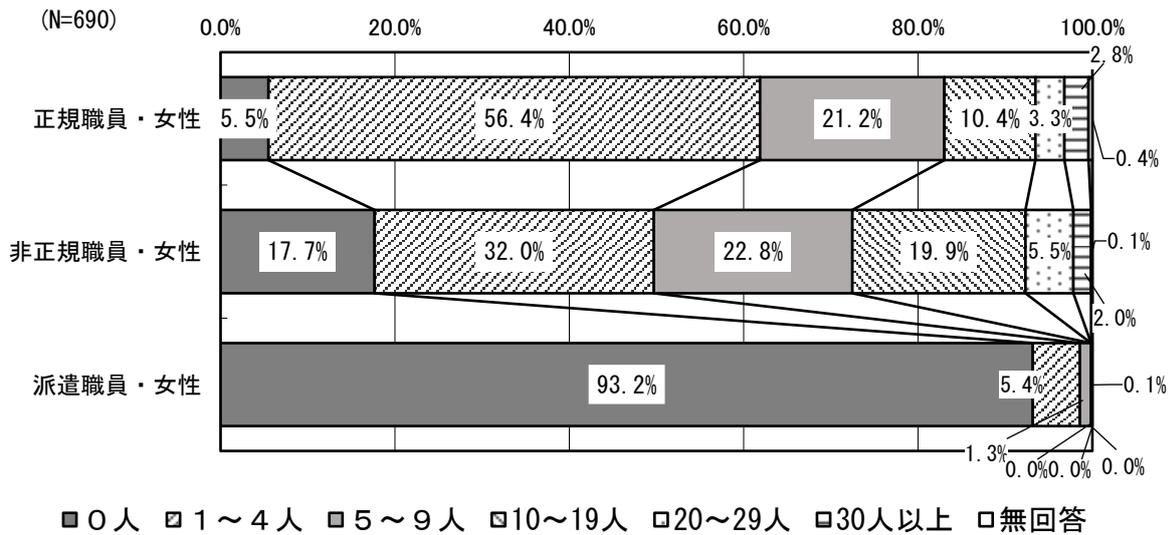


■ 0人 □ 1～4人 □ 5～9人 □ 10～19人 □ 20～29人 □ 30人以上 □ 無回答

図表 男性



図表 女性



【職員の年齢及び在職年数】

問2 貴事業所のすべての職員の年齢及び在職年数ごとの構成人数をご記入ください。

職員の年齢構成についてみると、「40歳代」(25.2%)が最も多く、次いで「50歳代」(24.1%)、「60歳代以上」(23.9%)となっています。

図表 問2 職員の年齢構成

	総人数	構成比
20歳代以下	1,117	9.4%
30歳代	2,026	17.1%
40歳代	2,986	25.2%
50歳代	2,857	24.1%
60歳代以上	2,834	23.9%
不明	39	0.3%
合計	11,859	100.0%

職員の在職年数構成についてみると、「10年以上」（25.3%）が最も多く、次いで「5年以上10年未満」（23.1%）、「1年以上3年未満」（19.8%）となっています。

図表 問2 職員の在職年数構成

	総人数	構成比
1年未満	1,715	14.5%
1年以上3年未満	2,353	19.8%
3年以上5年未満	1,977	16.7%
5年以上10年未満	2,734	23.1%
10年以上	3,002	25.3%
不明	78	0.7%
合計	11,859	100.0%

【職種の人数と過不足状況】

問3 下記の図表に該当する職種の人数と過不足状況をご記入ください。

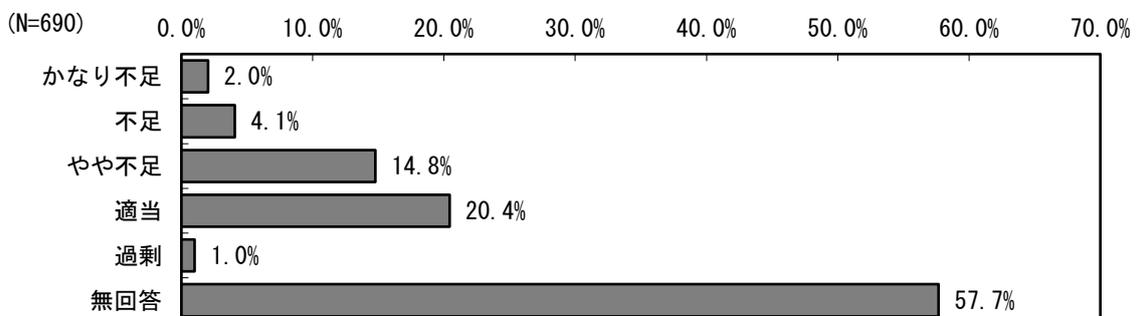
職種別の配置人数をみると、正規職員の比率が高いものは「サービス提供責任者」（91.9%）、「生活相談員、支援相談員」（82.7%）、「介護支援専門員、計画作成担当者」（78.1%）となっています。一方、非正規職員の比率が高いものは「訪問介護員」（77.3%）となっています。

図表 問3 職種別配置人数（正規・非正規）

	正規職員	比率	非正規職員	比率	合計
訪問介護員	552	22.7%	1,883	77.3%	2,435
サービス提供責任者	351	91.9%	31	8.1%	382
介護職員	2,509	54.1%	2,125	45.9%	4,634
看護職員	703	49.4%	720	50.6%	1,423
生活相談員、支援相談員	359	82.7%	75	17.3%	434
介護支援専門員、計画作成担当者	498	78.1%	140	21.9%	638
機能訓練指導員	375	58.6%	265	41.4%	640
その他の職員	653	57.3%	486	42.7%	1,139

全職種での過不足状況についてみると、「適当」（20.4%）が最も多く、次いで「やや不足」（14.8%）、「不足」（4.1%）となっています。「かなり不足」、「不足」、「やや不足」を合計すると20.9%となっています。

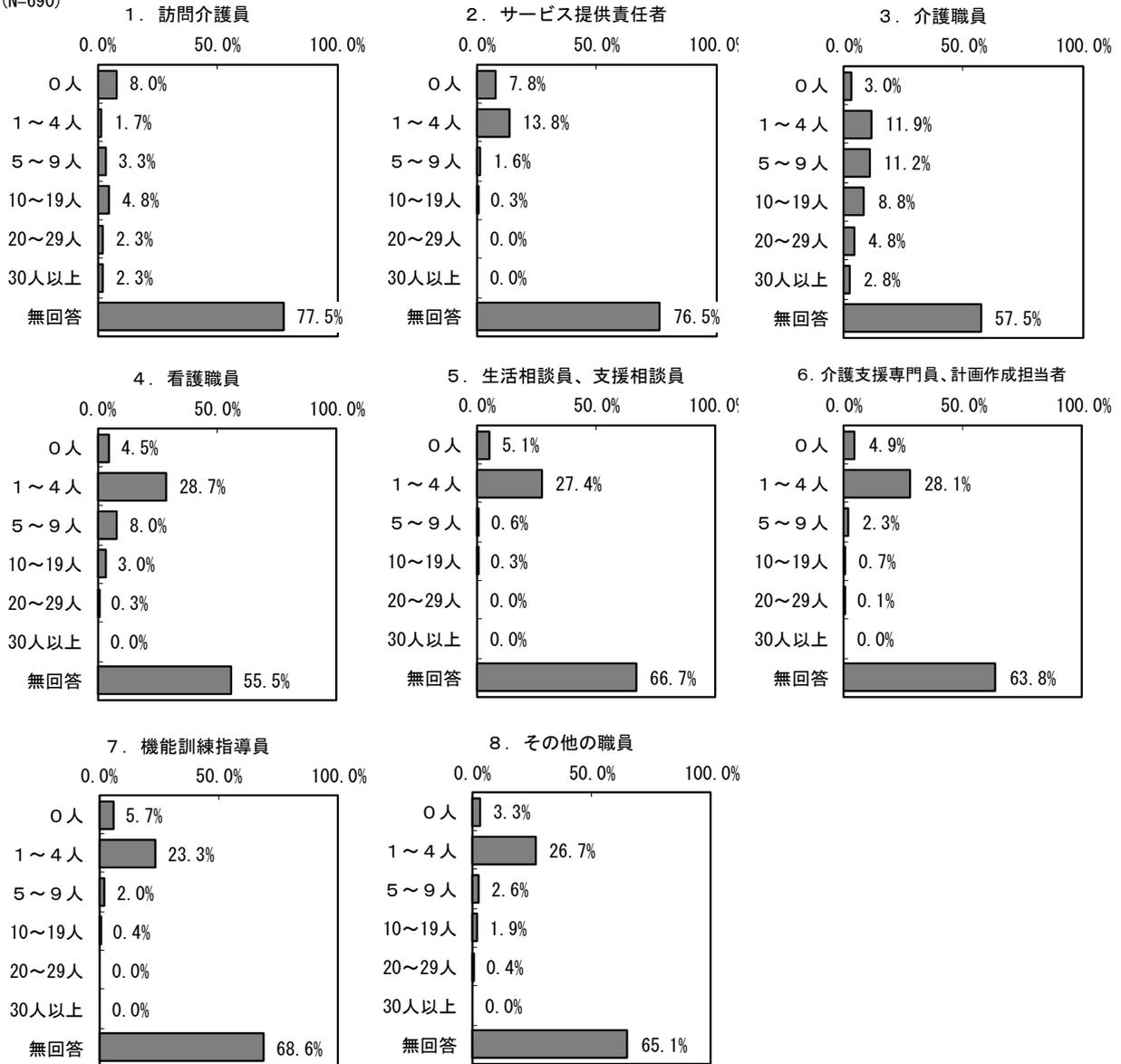
図表 問3 全体 過不足状況



職種別の配置希望人数と過不足状況は以下の通りとなっています。過不足状況について「かなり不足」、「不足」、「やや不足」を合計すると、「介護職員」と「看護職員」で不足感が高く、「介護職員」は27.1%、「看護職員」は20.7%となっています。

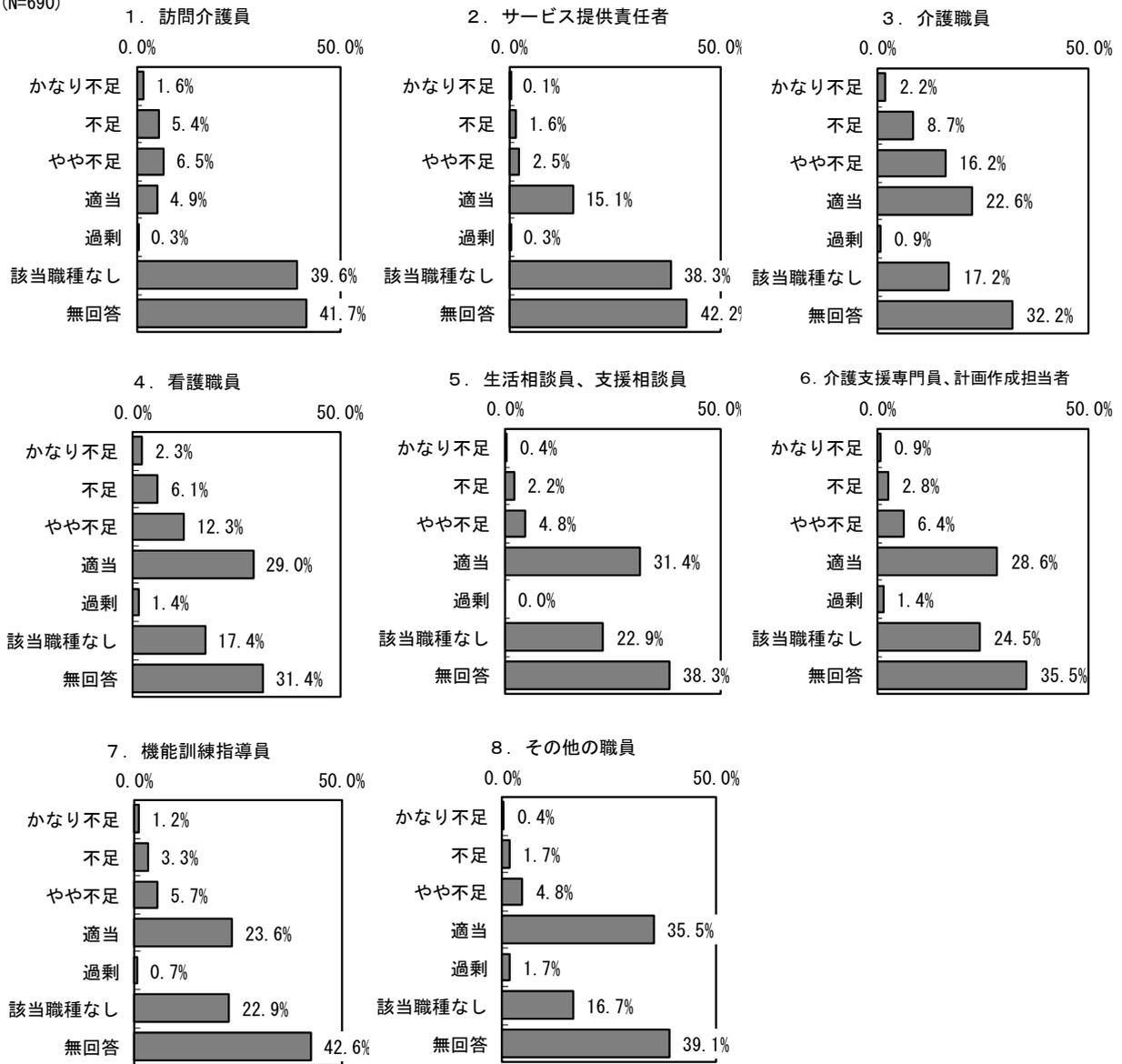
図表 問3 職種別配置希望人数

(N=690)



図表 問3 過不足状況

(N=690)

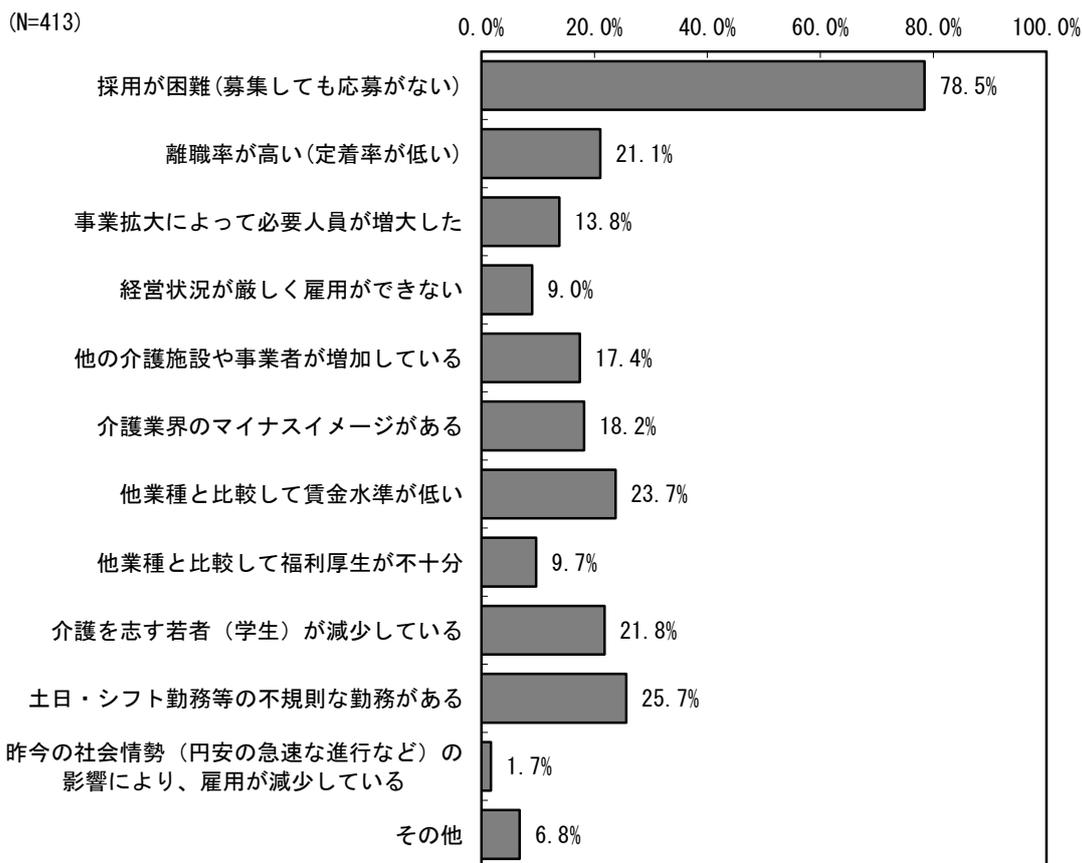


【配置人数が不足している理由】

問4 問3で「かなり不足、不足、やや不足」をつけた職種が1つでもある場合、その理由として該当するものに○をつけてください。(複数回答可)

不足している理由についてみると、「採用が困難(募集しても応募がない)」(78.5%)が最も多く、次いで「土日・シフト勤務等の不規則な勤務がある」(25.7%)、「他業種と比較して賃金水準が低い」(23.7%)となっています。

図表 問4 配置人数が不足している理由(複数回答)

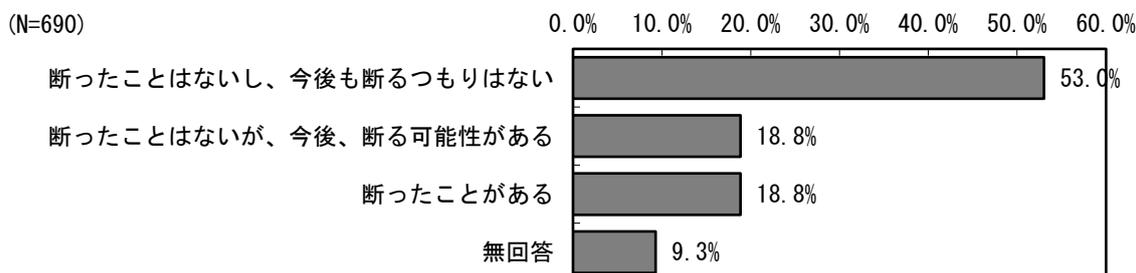


【人員不足を原因にサービス提供を断った経験】

問5 今まで、人員不足を原因にサービス提供を断ったことがありますか。

人員不足を原因にサービス提供を断ったことについてみると、「断ったことはないし、今後も断るつもりはない」(53.0%)が最も多く、「断ったことはないが、今後、断る可能性がある」と「断ったことがある(施設系サービスで、整備後に定員の受け入れができなかった場合を含む)」は共に18.8%となっています。

図表 問5 人員不足を原因にサービス提供を断った経験



【採用者数、離職者数】

問6 2021年10月1日～2022年9月30日の採用者数、離職者数等を記入してください。

※ 離職者には、同一法人内の転出入者、産休・育児休暇取得中の人を除きます。

2021年10月1日～2022年9月30日の採用者数をみると、「訪問介護員」、「介護職員」では非正規職員が正規職員を上回っています。

また、離職者数をみると、「訪問介護員」、「介護職員」は「勤続年数1年未満」が多く、特に「非正規の介護職員」が多くなっています。「サービス提供責任者」は「勤続年数3年以上」の離職者数が多くなっています。

図表 問6 採用者数、離職者数（2021年10月1日～2022年9月30日）

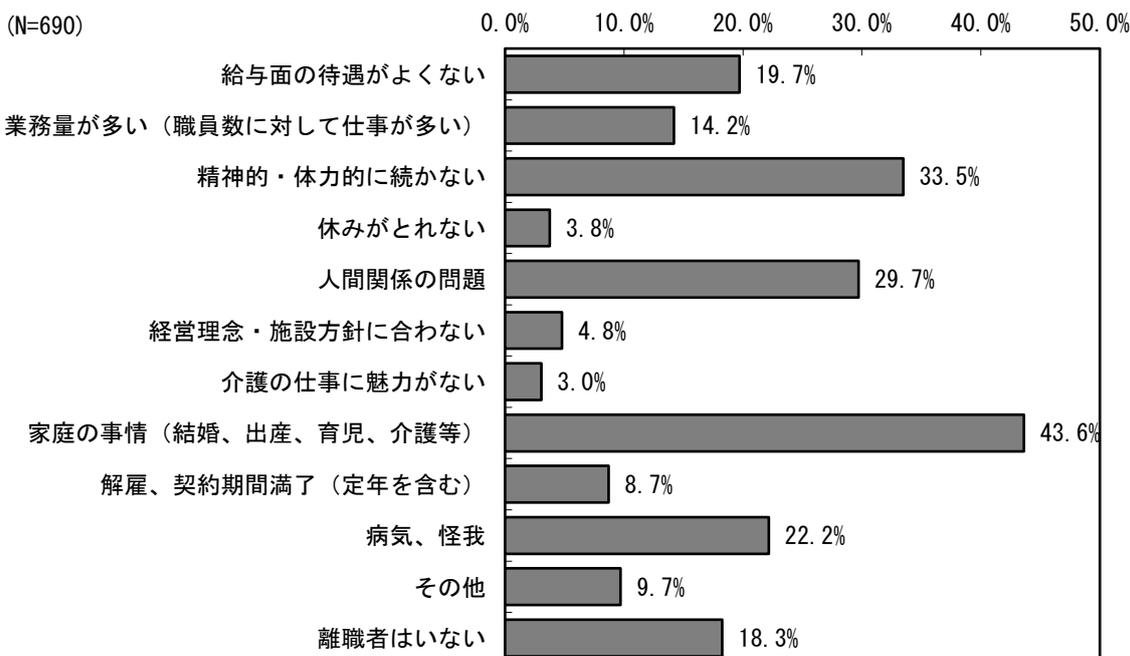
	採用者数	市外からの 転入	離職者数	離職者の勤続年数			
				1年未満	1年以上 3年未満	3年以上	
訪問介護員	正規職員	111	5	73	32	26	21
	非正規職員	265	10	214	84	43	85
サービス提供責任者	正規職員	27	1	28	8	6	15
	非正規職員	1	0	7	0	0	4
介護職員	正規職員	394	32	371	113	115	129
	非正規職員	514	61	445	234	99	117
上記以外	正規職員	262	23	244	82	69	112
	非正規職員	332	11	201	79	52	89

【離職の主な理由】

問7 貴事業所が認識している離職の主な理由をお答えください。（上位3つを選択）

離職の主な理由についてみると、「家庭の事情（結婚、出産、育児、介護等）」（43.6%）が最も多く、次いで「精神的・体力的に続かない」（33.5%）、「人間関係の問題」（29.7%）となっています。「離職者はいない」は18.3%となっています。

図表 問7 離職の主な理由（3つ以内で複数回答）

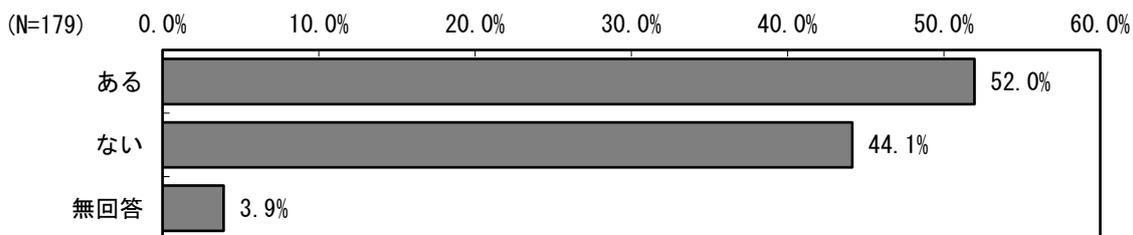


【訪問サービス提供時に暴力やハラスメント行為を受けた経験】

問8 訪問看護・訪問介護サービス事業所にお聞きします。訪問サービス提供時に、利用者やその家族から、暴力やハラスメント行為を受けた経験はありますか。

訪問看護・訪問介護サービス事業所について、暴力やハラスメント行為を受けた経験をみると、「ある」は52.0%となっています。

図表 問8 暴力やハラスメント行為を受けた経験



【介護職員養成研修費用助成事業の認知状況】

問10 姫路市が実施している下記施策についてお答えください。

- 問10-1 介護職員養成研修費用助成事業をご存じですか。
- 問10-3 介護人材交流育成事業をご存じですか。
- 問10-5 介護情報提供体制整備事業をご存じですか。
- 問10-7 介護事業所向け弁護士相談事業をご存じですか。

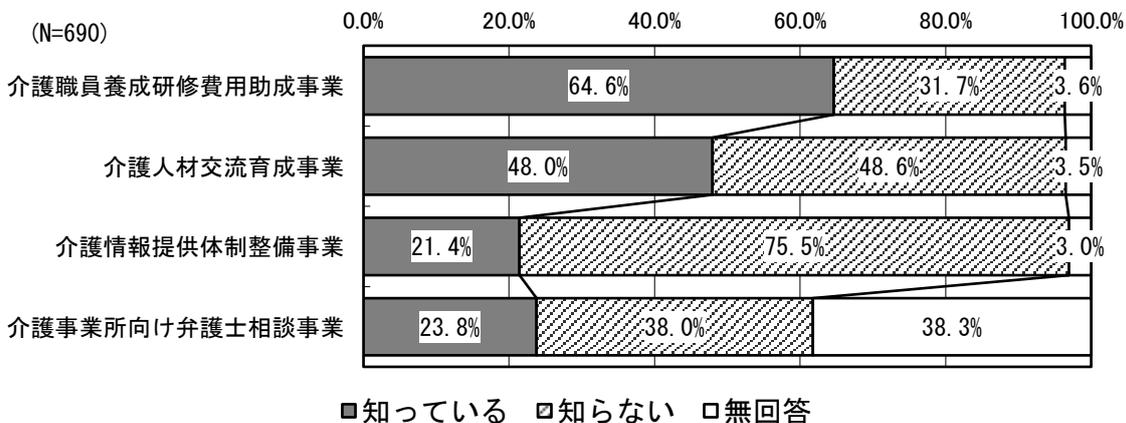
介護職員養成研修費用助成事業の認知状況についてみると、「知っている」は64.6%となっています。

介護人材交流育成事業の認知状況についてみると、「知っている」は48.0%となっています。

介護情報提供体制整備事業の認知状況についてみると、「知っている」は21.4%となっています。

介護事業所向け弁護士相談事業の認知状況についてみると、「知っている」は23.8%となっています。

図表 問10 事業の認知状況

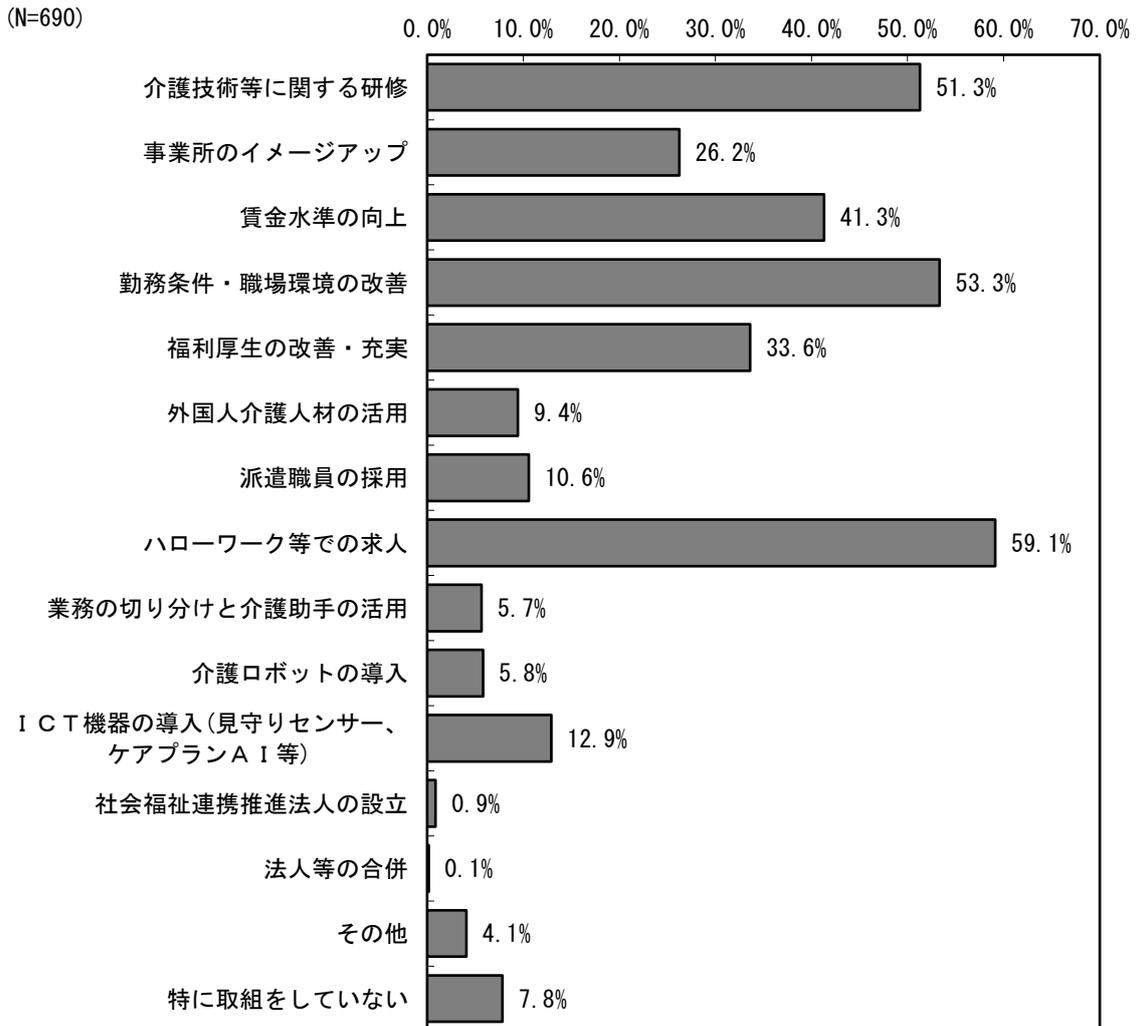


【介護人材を確保・育成するための取組】

問 11 貴事業所は介護人材を確保・育成するために、どのようなことに取り組んでいますか。(複数回答可)

介護人材を確保・育成するために取り組んでいることについてみると、「ハローワーク等での求人」(59.1%)が最も多く、次いで「勤務条件・職場環境の改善」(53.3%)、「介護技術等に関する研修」(51.3%)となっています。「特に取組をしていない」は7.8%となっています。

図表 問 11 介護人材を確保・育成するための取組 (複数回答)

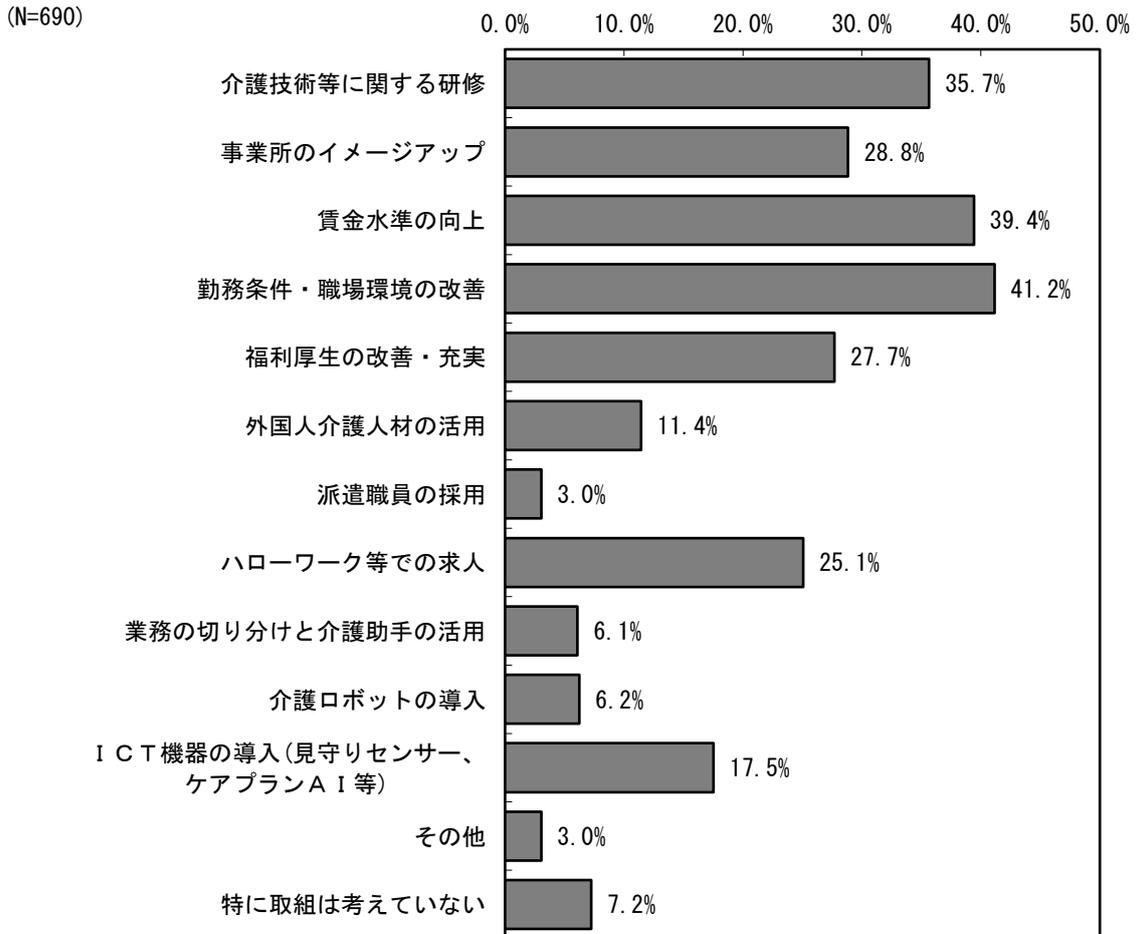


【介護人材を確保・育成するために今後取り組みたいこと】

問 12 貴事業所は介護人材を確保・育成するために、今後どのようなことに取り組みたいと考えていますか。(3つまで回答可)

介護人材を確保・育成するために今後取り組みたいことについてみると、「勤務条件・職場環境の改善」(41.2%)が最も多く、次いで「賃金水準の向上」(39.4%)、「介護技術等に関する研修」(35.7%)となっています。「特に取組は考えていない」は7.2%となっています。

図表 問 12 介護人材を確保・育成するために今後取り組みたいこと (3つ以内で複数回答)



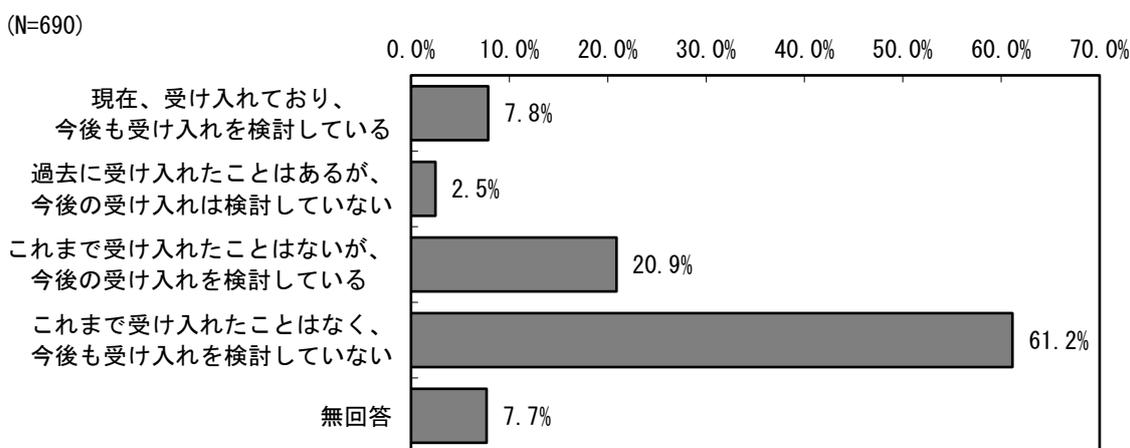
外国人介護職員の採用について

【外国人介護職員の受け入れ状況】

問 13 貴事業所における、外国人介護職員の受け入れ状況についてお答えください。(1つに○)

外国人介護職員の受け入れ状況についてみると、「これまで受け入れたことはなく、今後も受け入れを検討していない」(61.2%)が最も多く、次いで「これまで受け入れたことはないが、今後の受け入れを検討している」(20.9%)、「現在、受け入れており、今後も受け入れを検討している」(7.8%)となっています。

図表 問 13 外国人介護職員の受け入れ状況

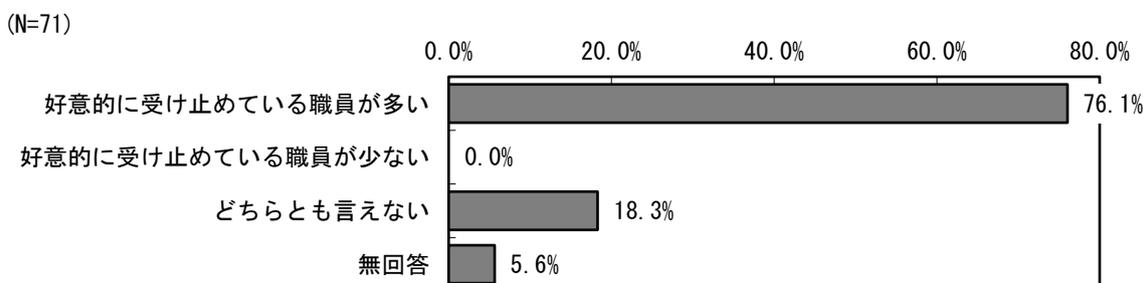


【外国人介護職員に対する日本人職員の反応】

問 14-5 外国人介護職員に対する日本人職員の反応はいかがです(でした)か。

外国人介護職員を現在受け入れている、または過去に受け入れたことがある事業所について、外国人介護職員に対する日本人職員の反応をみると、「好意的に受け止めている職員が多い」が76.1%、「どちらとも言えない」が18.3%となっています。

図表 問 14-5 外国人介護職員に対する日本人職員の反応

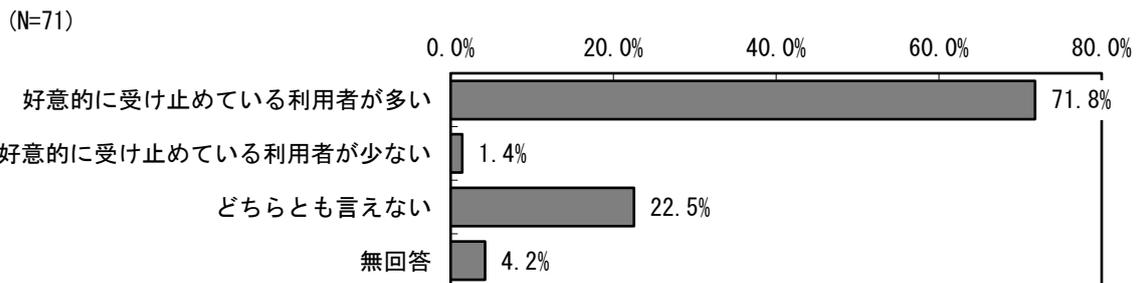


【外国人介護職員に対するサービス利用者の反応】

問 14-6 外国人介護職員に対するサービス利用者の反応はいかがです(でした)か。

外国人介護職員を現在受け入れている、または過去に受け入れたことがある事業所について、外国人介護職員に対するサービス利用者の反応をみると、「好意的に受け止めている利用者が多い」(71.8%)が最も多く、次いで「どちらとも言えない」(22.5%)、「好意的に受け止めている利用者が少ない」(1.4%)となっています。

図表 問 14-6 外国人介護職員に対するサービス利用者の反応



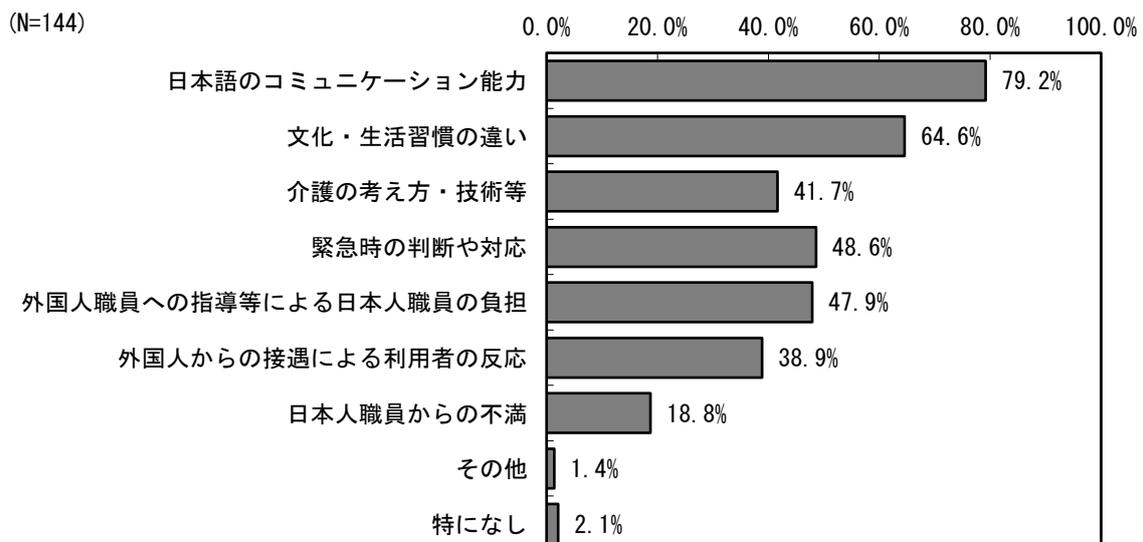
【外国人介護職員の受け入れ後の体制に関する課題】

問 15 問 13 で「3.」に○をつけた事業所にお伺いします。外国人介護職員の受け入れを検討するにあたり、課題となっている(と思われる)ことをお答えください。(複数選択可)

問 15-2 受け入れ後の体制に関する課題

外国人介護職員の今後の受け入れを検討している事業所について、受け入れ後の体制に関する課題をみると、「日本語のコミュニケーション能力」(79.2%)が最も多く、次いで「文化・生活習慣の違い」(64.6%)、「緊急時の判断や対応」(48.6%)となっています。

図表 問 15-2 外国人介護職員の受け入れ後の体制に関する課題 (複数回答)



【社会情勢による外国人介護人材の確保の困難性】

問 16 昨今の社会情勢（円安の急速な進行など）の影響により、外国人介護人材の確保が困難になっていると感じますか。

昨今の社会情勢（円安の急速な進行など）の影響により、外国人介護人材の確保が困難になっていると感じるかをみると、「感じる」は18.0%となっています。

図表 社会情勢による外国人介護人材の確保の困難性

